令和６年

長 野 市 の 災 害 と 気 象

長　　野　　市

目 次

第１　令和６年災害総括表 ･･･ 1

第２　令和６年の気象概況と災害 ･･･ 5
　１　令和６年の気象概況 ･･･ 5
　２　令和６年地上気象観測年統計値表 ･･･ 8
　３　気象概況と災害（各事例） ･･ 9
　　災害番号06-1（県R06-2）（能登半島地震）･････････････････････････････ 9
　　災害番号06-2（県R06-9）（大雨）･････････････････････････････････････ 12
　　災害番号06-3（県R06-26）（大雨）･････････････････････････････････････ 18

第３　避難指示等発令状況 ･･ 24

第４　災害年表 ･･･ 25

第５　資料 ･･･ 資料1
　１　長野市の地勢概要 ･･ 資料3
　２　長野市の気象概況 ･･ 資料4
　３　長野における気象要素平年値 ･･･ 資料4
　４　長野における気象要素極値 ･･･ 資料5
　５　長野市内及び周辺雨量等観測所一覧 ･････････････････････････････････････ 資料6
　６　長野市内及び周辺雨量観測所配置図･････････････････････････････････････ 資料9
　７　用語解説 ･･ 資料10

注）本書において、「長野」と表記した場合はすべて長野地方気象台を表す。また、本文中の雨量ならびに降雪・積雪観測所および風向風速観測局の表記については、資料６～８ページのとおり。

第１　令和６年災害総括表

長野県の令和６年災害による被害状況（災害年表）の中で、次のいずれかの要件に該当するものの中から３件を選定した。

【要件】

・人的被害が発生したもの
・住家被害が発生したもの
・非住家被害が発生したもの
・農作物等の被害額が顕著に大きいもの
・関係各課で緊急連絡体制をとり、警戒にあたったもの
・災害警戒本部あるいは災害対策本部を設置したもの
・避難指示を発令したもの

災害番号 発生日	災害原因	災害地域	被害金額等
06-01 令和６年１月 １日	能登半島 地震	第二 第四 古牧 柳原 浅川 朝陽 若槻 安茂里 篠ノ井 豊野 信州新町 戸隠 中条 吉田 芋井 更北 松代 若穂 芹田 大豆島	○住家の被害 15 棟 15 世帯 42 人 ○その他 2,142 千円

災害番号 発生日	災害原因	災害地域	長野市内の降水量(mm)		被害金額等
06-02 令和６年５月 27日～29日	大雨	若槻 戸隠 松代 若穂 更北 信更 豊野 篠ノ井 七二会 信州新町 大岡 安茂里 鬼無里 中条 小田切 芋井 川中島	長野市役所	79.5	○農地等 18,450 千円 ○林業関係 14,650 千円 ○公共土木施設 52,466 千円
			篠ノ井支所	86.5	
			松代支所	92.5	
			若穂支所	86.5	
			川中島支所	79.5	
			更北支所	58.5	
			七二会支所	89.5	
			信更高野	93.0	
			柳原支所	78.0	
			若槻支所	67.5	
			安茂里支所	81.0	
			富士ノ塔	83.5	
			飯綱浄水場	81.0	
			菅平県道	103.0	
			信更支所	93.0	
			戸隠支所	73.0	
			戸隠公民館	82.0	
			中条支所	91.0	
			中条倉本	87.0	
			中条念仏寺	88.0	
			芋井支所	77.5	
			東部中学校	70.5	
			三陽中学校	79.5	
			豊栄小学校	100.0	
			大岡笹久	93.5	
			信級公民館	98.5	
			長野（長野建設）	72.0	
			浅川(県)	70.0	
			陣場平(県)	70.0	
			信里(県)	88.0	
			地蔵峠(県)	104.0	
			三才(県)	欠測	
			松代(県)	86.0	
			若穂保科(県)	89.0	
			豊野(県)	57.0	
			裾花ダム(県)	78.0	
			戸隠(砂)	70.0	
			戸隠(県)	73.0	
			戸隠牧場(県)	66.0	
			鬼無里(県)	82.5	
			日影(県)	73.0	
			日影(砂)	81.0	
			奥裾花ダム(県)	80.0	
			大岡(県)	欠測	
			信州新町(砂)	84.0	
			信州新町(県)	欠測	
			長野	76.0	
			鬼無里(気)	82.5	
			信州新町(気)	82.5	
			信濃町(気)	65.0	
			菅平(気)	102.0	
			聖高原(気)	110.5	
			三水(県)	54.0	
			牟礼(県)	66.0	

注1)　降水量は合計値（mm）
注2)　降水量[*]は欠測を含む

災害番号 発生日	災害原因	災害地域	長野市内の降水量(mm)		被害金額等
06-03 令和６年８月 24日～25日	大雨	小田切 芋井 鬼無里 浅川 篠ノ井 更北 戸隠 安茂里 松代 若穂 信更 第一 七二会 大岡 信州新町 中条	長野市役所 篠ノ井支所 松代支所 若穂支所 川中島支所 更北支所 七二会支所 信更高野 柳原支所 若槻支所 安茂里支所 富士ノ塔 飯綱浄水場 菅平県道 信更支所 戸隠支所 戸隠公民館 中条支所 中条倉本 中条念仏寺 芋井支所 東部中学校 三陽中学校 豊栄小学校 大岡笹久 信級公民館 長野（長野建設） 浅川(県) 陣場平(県) 信里(県) 地蔵峠(県) 三才(県) 松代(県) 若穂保科(県) 豊野(県) 裾花ダム(県) 戸隠(砂) 戸隠(県) 戸隠牧場(県) 鬼無里(県) 日影(県) 日影(砂) 奥裾花ダム(県) 大岡(県) 信州新町(砂) 信州新町(県) 長野 鬼無里(気) 信州新町(気) 信濃町(気) 菅平(気) 聖高原(気) 三水(県) 牟礼(県)	51.0 75.5 17.5 12.5 63.5 74.0 64.5 66.5 13.5 24.5 72.5 82.5 108.5 13.0 63.0 90.0 61.5 50.0 67.0 59.0 69.5 31.0 22.0 15.5 70.0 95.0 64.0 46.0 51.0 66.0 18.0 20.0 41.0 20.0 20.0 74.0 37.0 52.0 14.0 52.5 49.0 58.0 39.0 78.0 61.0 65.0 45.0 52.5 52.5 78.0 10.5 98.5 18.0 43.0	○農地等 20,000千円 ○林業関係 15,224千円 ○公共土木施設 100,667千円

注1)　降水量は合計値（mm）
注2)　降水量[*]は欠測を含む

第２　令和６年の気象概況と災害

１　令和６年の気象概況

・年平均気温は長野県内ほぼ全ての地点で平年と比べてかなり高くなり、年平均気温の高い方からの値が、統計開始以来１位となった。長野では年間の夏日（日最高気温25℃以上）の日数が 146日となり、統計開始以来最多となった。

・年降水量は、前線や低気圧、湿った空気の影響により、平年より多い所が多く、北部や中部を中心にかなり多い地点もあった。

(1) 冬（令和５年12月～令和６年２月）

・１月を中心に冬型の気圧配置となることはあったが長続きはせず、寒気の影響は弱かった。月平均気温は３か月連続で平年より高い地点が多く、長野では12月～２月の真冬日（日最高気温０℃未満）日数は平年5.1日に対し１日（１月24日）のみだった。降雪量は冬全体としては少ない傾向だったが、２月は上旬と下旬に本州の南岸を通過した低気圧の影響で大雪となった日があり、月降雪量は軽井沢では78cm（平年38cm）となり、平年の２倍以上の値を観測した。長野では２月５日は大雪となり、日降雪量は31cmを観測した。

・長野の月平均気温は各月とも平年より高いか、かなり高かった。

・長野の月降雪量は平年と比べ、12月はかなり少なく、１月は少なく、２月は平年並みだった。

(2) 春（３月～５月）

・３月から４月にかけては低気圧や前線の影響を受けやすく、３月上旬から中旬は大雪、下旬から４月にかけては大雨となった日があった。３月の月降水量や降雪量はほとんどの地点で平年より多く、月降水量は長野を含む12地点で３月として統計開始以来１位の値を更新した。４月９日には前線を伴った低気圧が本州南岸を進んだ影響で日降水量が18地点で４月として統計開始以来１位の値を更新した。５月にも前線や低気圧の影響で大雨となった日があり、28日には長野を含む10地点で日降水量が５月として統計開始以来１位の値を更新した。

・長野の月平均気温は平年と比べ、３月は平年並み、４月はかなり高く、５月は高かった。特に４月は暖かい空気の影響を受けやすく４月として高い方から統計開始以来１位の値を更新した。

・長野の月降水量は、各月とも平年より多いか、かなり多かった。

・長野地方気象台のソメイヨシノの開花は４月８日（平年４月11日）、満開は４月13日（平年４月16日）だった。

(3) 梅雨（６月21日頃～７月18日頃：梅雨期間28日）

・関東甲信地方は、６月21日頃（平年６月７日頃）に梅雨入りし、７月18日頃（平年７月19日頃）に梅雨明けした。この期間の長野の降水量は188.5㎜（平年比約130%）だった。

(4) 夏（６月～８月）

・６月上旬～中旬には梅雨前線は日本の南の海上に停滞することが多く、県内は晴れた日が多かったが、下旬から７月中旬にかけて梅雨前線や低気圧、湿った空気の影響により曇りや雨の日が多くなった。６月23日には梅雨前線上を通過した低気圧の影響で大雨となり、上高地と奈川で日降水量が６月として統計開始以来１位の値を更新した。７月下旬から８月にかけては太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多かったが、気圧の谷や湿った空気の影響で雨や雷雨の日もあった。期間を通して暖かい空気の影響を受けやすく、７月は23日に佐久で、29日に辰野で日最高気温が年を通して高い方から統計開始以来１位の値を更新した。

・長野の月平均気温は、各月とも平年より高いか、かなり高かった。

・長野の月降水量は平年と比べ、６月は少なく、７月は多く、８月は平年並みだった。

(5) 秋（９月～11月）

・９月上旬から中旬にかけては太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多かったが、午後には大気の状態が不安定になって、雨や雷雨となった所があり、長野では９月９日に日最大１時間降水量が９月として統計開始以来１位の値を更新した。９月下旬や10月の上旬、下旬には秋雨前線や低気圧の影響を受けて曇りや雨の日が多くなった。また、９月と10月は暖かい空気に覆われやすかったため、２か月続けて月平均気温が県内ほぼ全ての地点で、その月として高い方から統計開始以来１位の値を更新した。11月の天気は周期的に変化したが、２日には台風第21号から変わった低気圧や前線の影響で大雨となった所があり、長野を含む23地点で日降水量が11月として統計開始以来１位の値を更新した。低気圧の通過後には西高東低の冬型の気圧配置となった日があり、北部や標高の高い地域を中心に雪が降った日もあった。

・長野の月平均気温は、各月とも平年より高いか、かなり高かった。

・長野の月降水量は平年と比べ、９月は平年並み、10月は多く、11月はかなり多かった。

・長野地方気象台では、11月７日に東方連山の初冠雪（平年10月25日）、11月８日に初霜（平年11月１日）、初氷（平年11月７日）、11月18日に初雪（平年11月18日）を観測した。

(6) 12月

・西高東低の冬型の気圧配置が続きやすかったため、北部は曇りや雪の日が多く中部や南部では晴れや曇りの日が多くなった。中部や南部では月降水量が平年を下回った地

点が多く、諏訪（0.0㎜）など10地点で12月として少ない方から統計開始以来１位の値を更新した。

・長野の月平均気温は平年と比べ低かった。

・長野の月降雪量は平年並みだった。

(7) 台風

・発生数は26個（平年25.1個）と平年並みだったが、日本への上陸数は２個（平年3.0個）だった。また、関東甲信地方に接近したのは３個だった。

2　令和６年　地 上 気 象 観 測 年 統 計 値 表

2024年（令和6年）　　地点名：長野

月	平均気圧 現地気圧	平均気圧 海面気圧	気温 平均	気温 最高気温	最高気温 起日	気温 最低気温	最低気温 起日	平均相対湿度	風速 平均	風速 最大風速	最大風速 風向	最大風速 起日	最大瞬間風速	最大瞬間風速 風向	最大瞬間風速 起日	降水量 合計	降水量 最大日量	最大日量 起日	降水量 最大1時間量	最大1時間量 起日	降水量 最大10分間量	最大10分間量 起日	月
	hPa	hPa	℃	℃	日	℃	日	%	m/s	m/s		日	m/s		日	mm	mm	日	mm	日	mm	日	
1月	968.0	1019.7	0.7	12.2	6	−0.8	24	82	2.0	13.3	西	21	19.6	西	21	45.0	7.0	21	3.5	7	1.0	21*	1月
2月	971.3	1022.8	2.5	19.6	19	0.3	5	78	2.6	10.7	北東	1	16.9	北北東	16	59.5	28.0	5	7.5	15	2.0	15	2月
3月	964.7	1015.6	4.0	19.4	29	2.6	09*	74	2.5	10.8	西	26	19.1	北西	18	124.0	25.5	26	6.0	12	2.0	29	3月
4月	965.5	1014.4	14.5	29.9	28	11.8	5	63	3.0	11.3	西	24	16.4	西	24	87.0	52.5	9	7.5	9	2.0	9	4月
5月	965.0	1013.3	17.2	32.9	5	14.6	8	64	3.1	10.5	北	25	17.5	南南西	6	117.0	75.5	28	10.5	28	2.5	28	5月
6月	961.5	1008.9	21.4	33.8	15	19.6	2	71	2.6	9.4	北北西	16	15.0	南西	20	62.5	26.0	23	4.5	23	1.0	30*	6月
7月	961.8	1008.5	25.5	36.1	7	25.6	12	82	1.8	8.8	北北西	7	12.6	北北西	7	171.0	28.0	1	13.0	6	9.0	6	7月
8月	961.0	1007.4	27.0	36.6	23	27.3	31	77	2.5	11.0	北北西	6	18.6	西南西	24	116.5	33.5	24	24.5	24	13.5	24	8月
9月	965.8	1012.8	24.6	34.2	14	23.9	24	78	2.4	8.4	北北西	23	13.2	北北西	23	129.5	29.0	9	47.0	9	12.0	9	9月
10月	970.4	1019.0	17.5	29.6	2	14.8	20	79	2.7	11.4	北北西	7	16.4	北	7	121.0	21.5	9	9.5	7	5.0	23	10月
11月	969.8	1019.8	9.3	22.1	4	6.0	19	80	2.4	10.2	西	26	15.3	西南西	26	86.0	56.0	2	13.0	2	3.0	2	11月
12月	965.2	1016.5	1.7	16.0	3	2.0	28	87	1.6	6.6	東	4	11.4	東	4	33.5	7.5	14	2.5	21*	1.5	14	12月
年	965.8	1014.9	13.8	36.6	8/23	−0.8	1/24	76	2.4	13.3	西	1/21	19.6	西	1/21	1152.5	75.5	5/28	47.0	9/9	13.5	8/24	年

月	日照時間	全天日射量日合計の平均	降雪の深さ（合計）	最深積雪	最深積雪 起日	日最高気温 0℃未満日数（真冬日）	日最高気温 25℃以上日数（夏日）	日最高気温 30℃以上日数（真夏日）	日最高気温 35℃以上日数（猛暑日）	日最低気温 25℃以上日数（熱帯夜）	日最低気温 0℃未満日数（冬日）	日降水量1mm以上日数	日降水量10mm以上日数	雷日数	霧日数	雪日数	月
	時間	MJ/㎡	cm	cm	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	
1月	137.4	8.8	45	18	8	1	0	0	0	0	27	10	0	0)	3	17	1月
2月	110.2	10.0	41	31	5	0	0	0	0	0	26	8	1	0	0	19	2月
3月	162.6	14.2	31	8	21*	0	0	0	0	0	17	15	5	1)	0	19	3月
4月	185.6	18.1	--	—		0	7	0	0	0	0	6	2	1	0	0	4月
5月	218.2	20.9	--	—		0	18	3	0	0	0	5	2	0)	0	0	5月
6月	206.8	20.7	--	—		0	22	10	0	0	0	7	2	6)	0	0	6月
7月	147.2	17.2	--	—		0	31	17	4	0	0	14	8	13	0	0	7月
8月	201.3	19.2	--	—		0	31	27	4	3	0	11	6	16)	0	0	8月
9月	172.8	15.9	--	—		0	27	17	0	0	0	9	6	10)	0)	0)	9月
10月	141.7	11.3	--	—		0	10	0	0	0	0	11	7	1)	2	0	10月
11月	128.9	8.8	--	—		0	0	0	0	0	1	8	1	0)	1)	3)	11月
12月	126.4	7.7	32	9	14	0	0	0	0	0	22	9	0	1)	3)	20	12月
年	1939.1	14.4	149	31	2/5	1	146	74	8	3	93	113	40	14	5	75	年

＊ 極値の起日重複

1つの極値に対して、期間内に起日が2日以上ある場合。起日の新しい方を掲載し、日の欄に*を付加しています。

３　気象概況と災害（各事例）

災害番号 06-１（県R06-２）

１　災害概要

・災害の種類（又は名称）　　能登半島地震

・災害発生月日（又は期間）　令和６年１月１日

・災害発生地域（又は場所）　第二、第四、古牧、柳原、浅川、朝陽、若槻、安茂里、篠ノ井、豊野、信州新町、戸隠、中条、吉田、芋井、更北、松代、若穂、芹田、大豆島

２　概況

１月１日16時10分に石川県能登地方の深さ16kmでM7.6の地震が発生し、石川県輪島市及び志賀町で震度７を観測したほか、北陸地方を中心に北海道から九州地方にかけて震度６強から１を観測した。長野市内では豊野町豊野で最大震度５弱を観測し、人的被害こそなかったものの、住家や公共施設などに被害が発生した。道路の通行止めや列車の運休など交通への被害も発生した。

３　状況

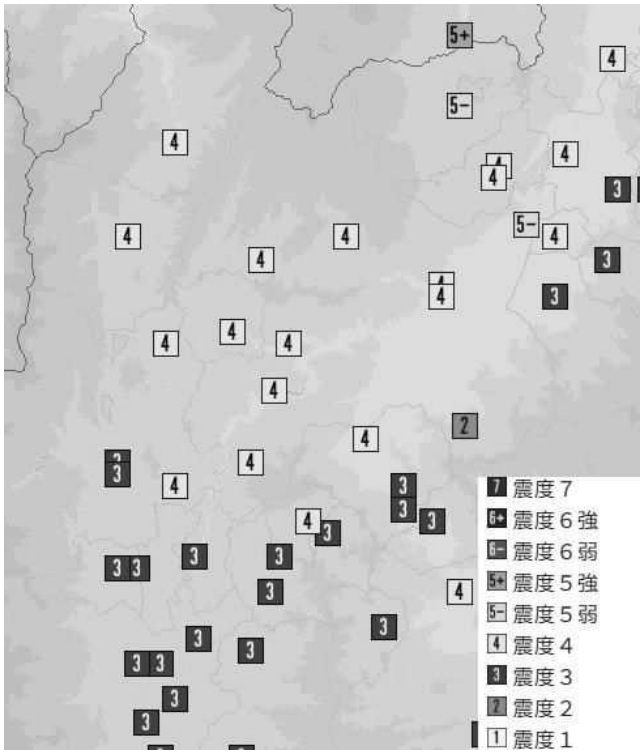


図6-1-1　長野市周辺の震度分布図（令和６年１月１日16時10分）

（気象庁震度データベースより引用）

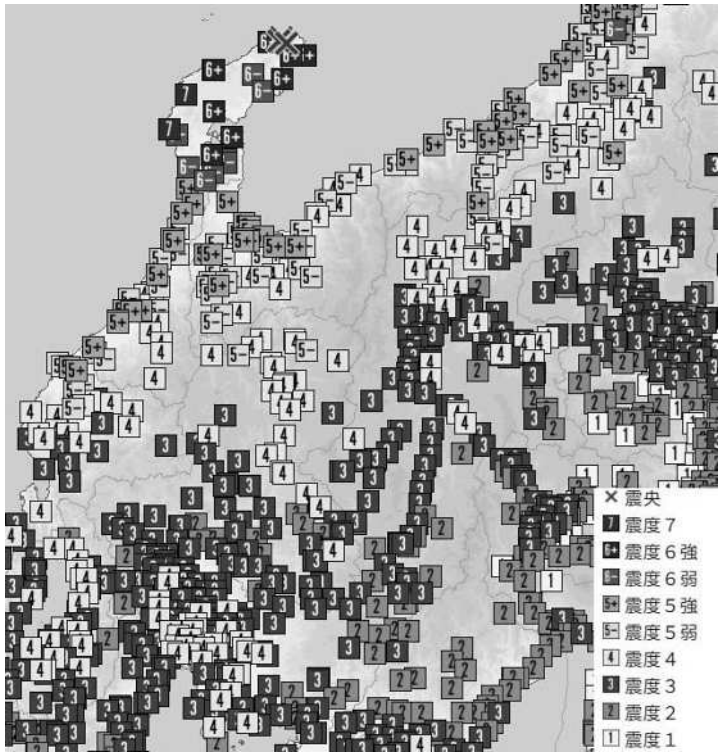


図6-1-2　長野県周辺の震度分布図（令和６年１月１日16時10分）

（気象庁震度データベースより引用）

４　被害状況

表6-1-1　　令和６年１月１日の地震の被害

区分	被害（市集計）	地区、種類等※
住家の被害	15棟15世帯42人	第二、第四、古牧、柳原、浅川２、朝陽、若槻２、安茂里、篠ノ井、豊野３、信州新町 屋根、外壁、建具、内壁等の損壊
その他	2,142千円	○支所 戸隠１ 防火戸の格納不良 ○観光施設 豊野１、中条１ 入口ジョイント破損、 建物内部壁面ひび割れ ○博物館 戸隠１ 模型の破損 ○公民館 吉田１、信州新町１ ガラスケース、トイレ損壊 ○公共施設等 芋井、信州新町、更北、松代 ○病院福祉施設等 豊野２、篠ノ井、松代、若穂、芹田 ○スポーツ施設 大豆島１ プール薬剤パイプの外れ

※被害発生箇所（地区名）＋件数を記載。発生箇所（件数）の特定が難しい場合は地区名のみを記載

表6-1-2　　罹災証明発行件数

災害番号	災害種別※		
	地震	風水害	雪害
06-１	６	０	０

※）災害種別は「火災・災害等即報要領」（消防庁長官）による

災害番号 06-２（県R06-９）

１　災害概要

・災害の種類（又は名称）　　大雨

・災害発生月日（又は期間）　　令和６年５月27日～29日

・災害発生地域（又は場所）　　若槻、戸隠、松代、若穂、更北、信更、 豊野、
篠ノ井、七二会、信州新町、大岡、安茂里、鬼無里、
中条、小田切、 芋井、川中島

２　気象概況

27日に前線を伴った低気圧が日本海からオホーツク海へ進み、28日～29日には後続の低気圧が東シナ海から本州を通過して日本の東へと進んだ。この期間は北上していた台風第１号や日本の東から張り出した太平洋高気圧の影響で、低気圧や前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込みやすく、全国的に大気の状態が不安定となった。長野市では28日を中心に大雨となり、地蔵峠や豊栄小学校では３日間の累加降水量が100㎜に達した。長野地方気象台では28日の日降水量が75.5㎜となり５月として統計開始以来１位の値を更新した。この大雨により市内各地で道路や河川、農地、林道などに被害が発生した。

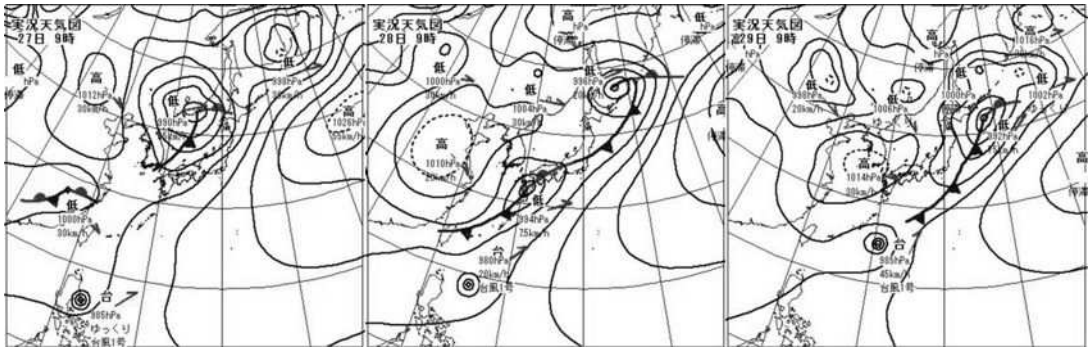


図6-2-1　地上天気図（令和６年５月27日～29日）

３　気象状況

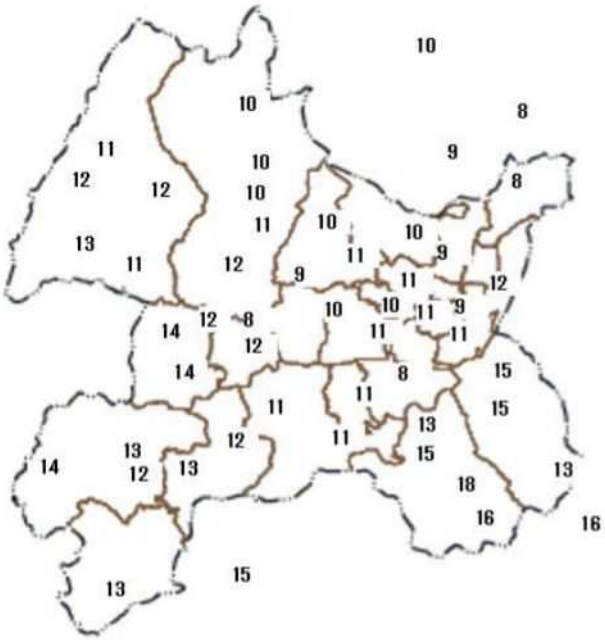
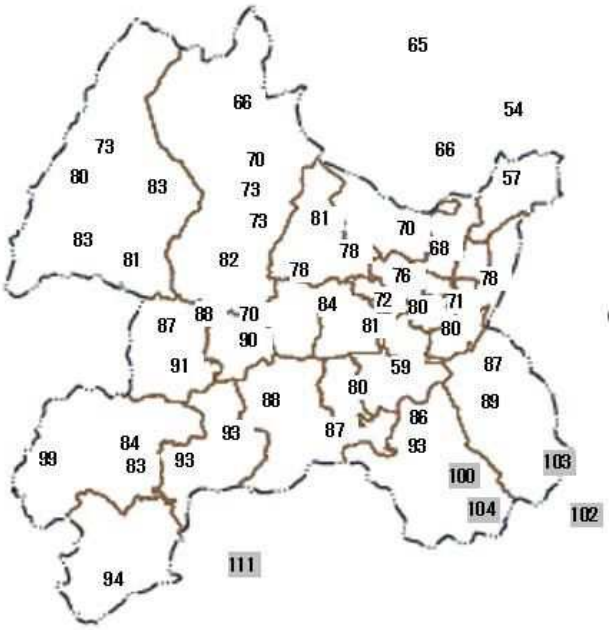


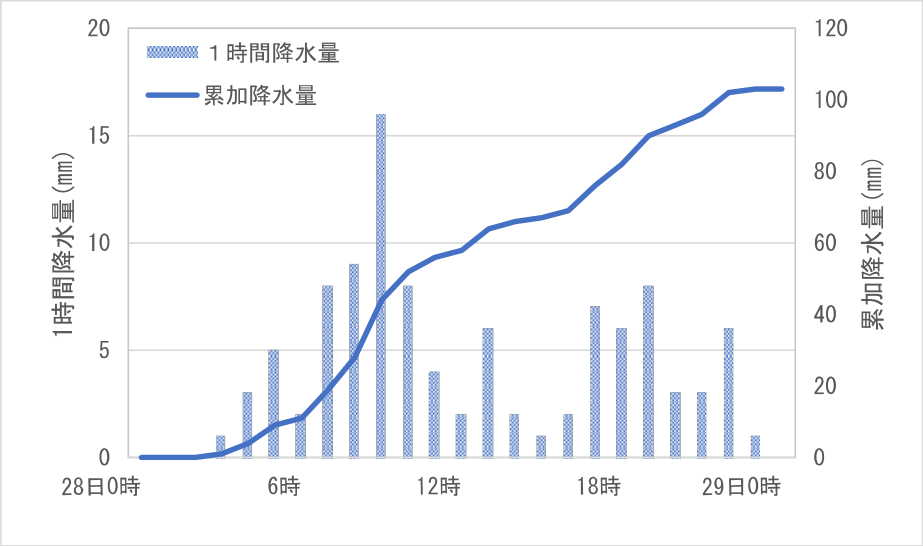
図6-2-2　最大１時間降水量の分布図　単位：mm
（令和６年５月27日～28日）



網掛…100 mm以上の観測所

図6-2-3　累加降水量の分布図　単位：mm
（令和６年５月27日～29日）

■地蔵峠（県）



■豊栄小学校

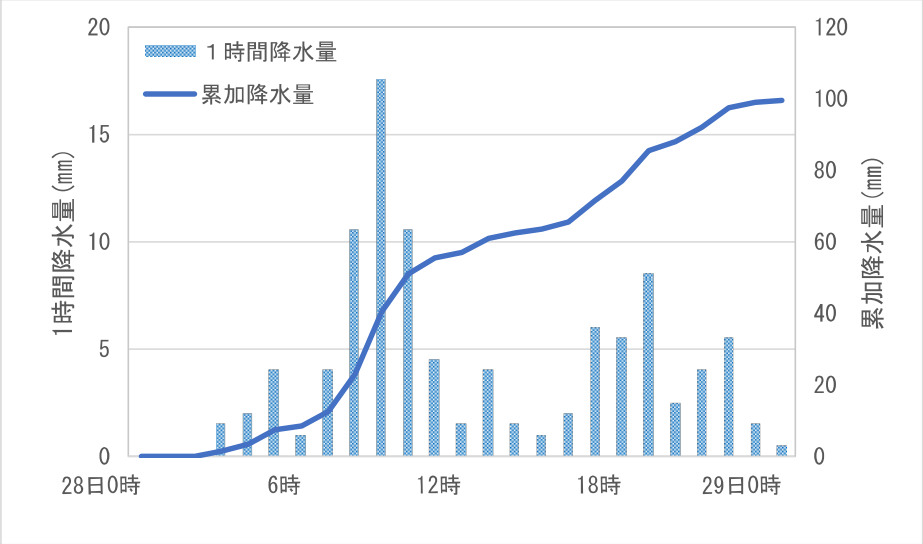


図6-2-4　各観測所の１時間降水量と累加降水量
［降水量が多かった２地点］
（令和６年５月28日０時～29日０時）

表6-2-1　各地の降水量（令和６年５月27日～29日）　　単位：mm

番号	観測所	累加降水量	最大１時間降水量	番号	観測所	累加降水量	最大１時間降水量
1	長野市役所	79.5	10.5	27	長野（長野建設）	72.0	10.0
2	篠ノ井支所	86.5	11.0	28	浅川(県)	70.0	10.0
3	松代支所	92.5	15.0	29	陣場平(県)	70.0	8.0
4	若穂支所	86.5	15.0	30	信里(県)	88.0	11.0
5	川中島支所	79.5	10.5	31	地蔵峠(県)	104.0	16.0
6	更北支所	58.5	8.0	32	三才(県)	欠測	欠測
7	七二会支所	89.5	11.5	33	松代(県)	86.0	13.0
8	信更高野	93.0	13.0	34	若穂保科(県)	89.0	15.0
9	柳原支所	78.0	12.0	35	豊野(県)	57.0	8.0
10	若槻支所	67.5	9.0	36	裾花ダム(県)	78.0	9.0
11	安茂里支所	81.0	10.5	37	戸隠(砂)	70.0	10.0
12	富士ノ塔	83.5	10.0	38	戸隠(県)	73.0	10.0
13	飯綱浄水場	81.0	10.0	39	戸隠牧場(県)	66.0	10.0
14	菅平県道	103.0	12.5	40	鬼無里(県)	82.5	12.0
15	信更支所	93.0	12.0	41	日影(県)	73.0	11.0
16	戸隠支所	73.0	10.5	42	日影(砂)	81.0	11.0
17	戸隠公民館	82.0	11.5	43	奥裾花ダム(県)	80.0	12.0
18	中条支所	91.0	14.0	44	大岡(県)	欠測	欠測
19	中条倉本	87.0	13.5	45	信州新町(砂)	84.0	13.0
20	中条念仏寺	88.0	12.0	46	信州新町(県)	欠測	欠測
21	芋井支所	77.5	10.5	47	長野	76.0	10.5
22	東部中学校	70.5	8.5	48	鬼無里(気)	82.5	13.0
23	三陽中学校	79.5	11.0	49	信州新町(気)	82.5	12.0
24	豊栄小学校	100.0	17.5	50	信濃町(気)	65.0	9.5
25	大岡笹久	93.5	12.5	51	菅平(気)	102.0	16.0
26	信級公民館	98.5	14.0	52	聖高原(気)	110.5	14.5
				53	三水(県)	54.0	8.0
				54	牟礼(県)	66.0	9.0

表6-2-2 注意報・警報等発表状況

●：発表　◇：特別警報から警報　▽：特別警報から注意報　▼：警報から注意報　〇：継続　解：解除
浸：浸水害　土：土砂災害　土浸：土砂災害、浸水害　斜体字：発表　下線：特別警報から警報

発表時刻	警報・注意報	長野市
2024/ 5/27 23:33	濃霧注意報	●
2024/ 5/28 04:22	雷注意報	●
	濃霧注意報	○
2024/ 5/28 09:48	大雨注意報	●
	雷注意報	○
	洪水注意報	●
	濃霧注意報	解
2024/ 5/28 23:13	大雨注意報	○
	雷注意報	解
	洪水注意報	○
	濃霧注意報	●
2024/ 5/29 02:41	大雨注意報	解
	洪水注意報	解
	濃霧注意報	○
2024/ 5/29 06:05	濃霧注意報	○
2024/ 5/29 07:29	濃霧注意報	解

４　被害状況

表6-2-3　　令和６年５月27日～29日の大雨の被害

区分	被害（市集計）	地区、種類等※
農地等 （農地、農道、 農業用水路）	18,450千円	○農道 若槻１、戸隠１ 倒木、路肩崩落 ○農業用水路 松代１、若穂１、更北２、信更１、 豊野４、戸隠３ 水路閉塞等 ○農地 篠ノ井２、七二会１、戸隠１、 信州新町１、大岡３ 法面崩落
林業関係 （林道等）	14,650千円	○林道 安茂里１、松代２、若穂５、七二会１、 鬼無里３、中条２、小田切１ 倒木、土砂崩落、路面洗堀ほか
公共土木施設 （市道、河川等）	52,466千円	○道路 芋井２、篠ノ井２、松代３、若穂１、 川中島１、更北３、信更１、戸隠16、 鬼無里９、大岡８、信州新町10、 路肩決壊、法面崩落、倒木 ○河川 川中島２、更北２、若穂１、 鬼無里３、大岡４、信州新町２ 土砂閉塞、路肩決壊、倒木等

※被害発生箇所（地区名）＋件数を記載。発生箇所（件数）の特定が難しい場合は地区名のみを記載

表6-2-4　　罹災証明発行件数

災害番号	災害種別※		
	地震	風水害	雪害
06-２	０	０	０

※）災害種別は「火災・災害等即報要領」（消防庁長官）による

災害番号 06-３（県R06-26）

１　災害概要

・災害の種類（又は名称）　　大雨

・災害発生月日（又は期間）　　令和６年８月24日～25日

・災害発生地域（又は場所）　　小田切、芋井、鬼無里、浅川、篠ノ井、更北、戸隠、安茂里、松代、若穂、信更、第一、七二会、大岡、信州新町、中条

２　気象概況

太平洋高気圧が日本の東から張り出し、その縁を回って流れ込む台風第10号由来の暖かく湿った空気や、日中の昇温の影響で全国的に大気の状態が不安定となった。長野市では24日の夜のはじめ頃や25日の夕方を中心に雷を伴った大雨となり、飯綱浄水場や富士ノ塔、戸隠支所の観測地点では1時間降水量が50㎜を超える非常に激しい雨が降った。この大雨により、戸隠や信州新町を中心に道路で路肩決壊や土砂崩落、倒木が発生し、河川や農地、林道にも被害が発生した。

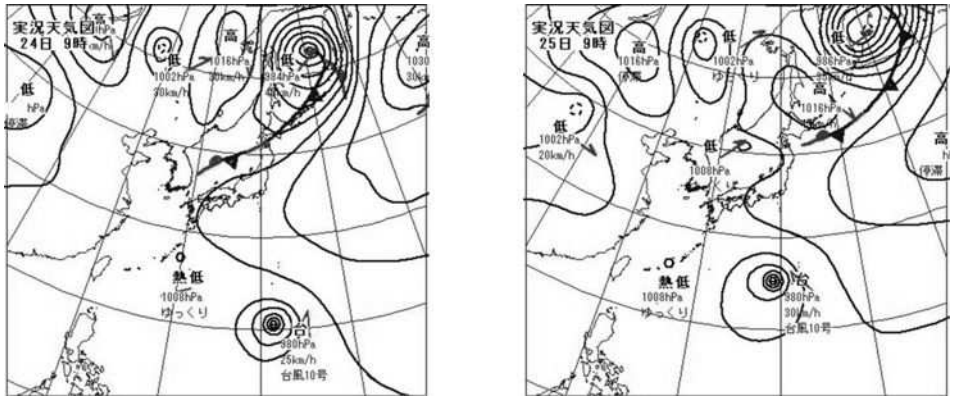
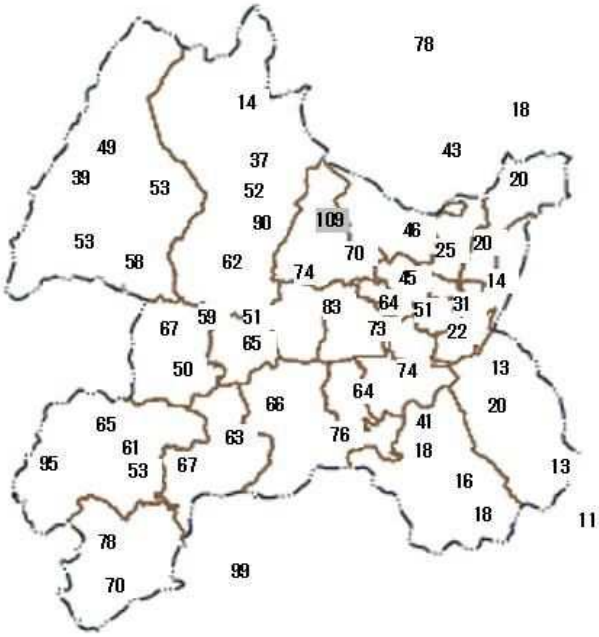


図6-3-1　地上天気図（令和６年８月24日～25日）

３　気象状況

網掛…50 ㎜以上の観測所

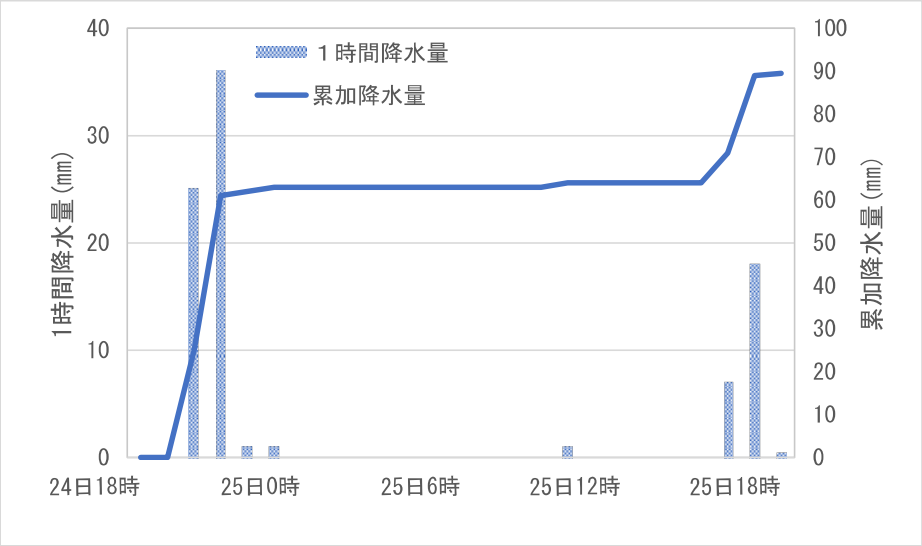
図6-3-2　最大１時間降水量の分布図　単位：㎜
（令和６年８月24日～25日）



網掛…100 ㎜以上の観測所

図6-3-3　累加降水量の分布図　単位：㎜
（令和６年８月24日～25日）

■戸隠支所



■信州新町（気）

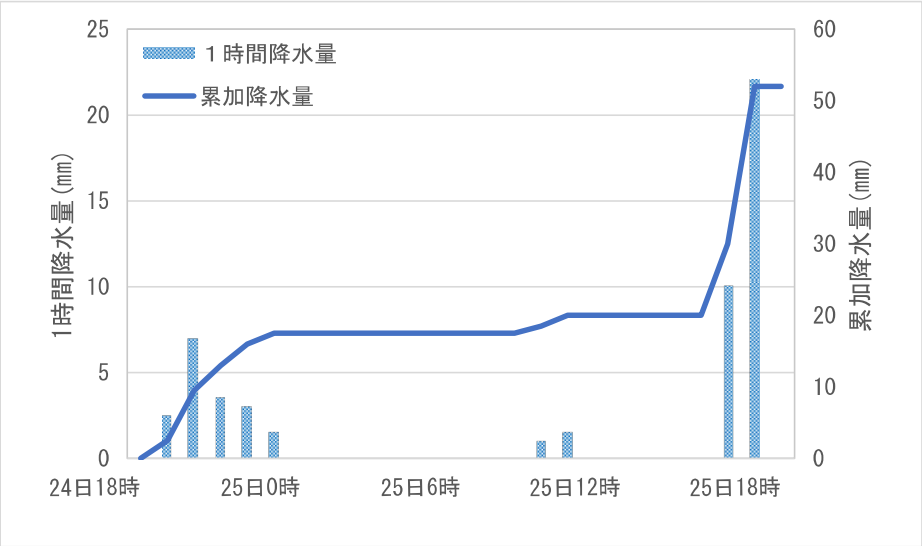


図6-3-4　各観測所の１時間降水量と累加降水量

［災害発生地域周辺の２地点］

（令和６年８月24日18時～25日18時）

表6-3-1　各地の降水量(令和６年８月24日～25日)　　単位：mm

番号	観測所	累加降水量	最大１時間降水量	番号	観測所	累加降水量	最大１時間降水量
1	長野市役所	51.0	25.5	27	長野（長野建設）	64.0	22.0
2	篠ノ井支所	75.5	46.5	28	浅川(県)	46.0	15.0
3	松代支所	17.5	6.0	29	陣場平(県)	51.0	23.0
4	若穂支所	12.5	5.0	30	信里(県)	66.0	30.0
5	川中島支所	63.5	39.0	31	地蔵峠(県)	18.0	7.0
6	更北支所	74.0	37.0	32	三才(県)	20.0	12.0
7	七二会支所	64.5	33.0	33	松代(県)	41.0	13.0
8	信更高野	66.5	30.5	34	若穂保科(県)	20.0	6.0
9	柳原支所	13.5	5.0	35	豊野(県)	20.0	5.0
10	若槻支所	24.5	11.5	36	裾花ダム(県)	74.0	32.0
11	安茂里支所	72.5	46.0	37	戸隠(砂)	37.0	17.0
12	富士ノ塔	82.5	58.0	38	戸隠(県)	52.0	20.0
13	飯綱浄水場	108.5	59.0	39	戸隠牧場(県)	14.0	5.0
14	菅平県道	13.0	5.0	40	鬼無里(県)	52.5	22.0
15	信更支所	63.0	36.5	41	日影(県)	49.0	29.0
16	戸隠支所	90.0	57.0	42	日影(砂)	58.0	17.0
17	戸隠公民館	61.5	37.5	43	奥裾花ダム(県)	39.0	17.0
18	中条支所	50.0	20.5	44	大岡(県)	78.0	27.0
19	中条倉本	67.0	24.5	45	信州新町(砂)	61.0	22.0
20	中条念仏寺	59.0	31.5	46	信州新町(県)	65.0	17.0
21	芋井支所	69.5	28.5	47	長野	45.0	24.0
22	東部中学校	31.0	18.5	48	鬼無里(気)	52.5	23.5
23	三陽中学校	22.0	7.5	49	信州新町(気)	52.5	31.0
24	豊栄小学校	15.5	5.5	50	信濃町(気)	78.0	47.0
25	大岡笹久	70.0	31.5	51	菅平(気)	10.5	4.0
26	信級公民館	95.0	29.0	52	聖高原(気)	98.5	70.5
				53	三水(県)	18.0	8.0
				54	牟礼(県)	43.0	20.0

表6-3-2 注意報・警報等発表状況

●：発表　◇：特別警報から警報　▽：特別警報から注意報　▼：警報から注意報　〇：継続　解：解除
浸：浸水害　土：土砂災害　土浸：土砂災害、浸水害　斜体字：発表　下線：特別警報から警報

発表時刻	警報・注意報	長野市
2024/ 8/24 04:11	雷注意報	○
2024/ 8/24 06:13	雷注意報	○
2024/ 8/24 14:58	大雨注意報	●
	雷注意報	○
	洪水注意報	●
2024/ 8/24 20:14	大雨警報	浸
	雷注意報	○
	洪水注意報	○
2024/ 8/24 20:30	大雨警報	浸
	洪水警報	●
	雷注意報	○
2024/ 8/24 22:56	大雨注意報	▼
	雷注意報	○
	洪水注意報	▼
2024/ 8/25 01:19	大雨注意報	○
	雷注意報	○
	洪水注意報	解
	濃霧注意報	●
2024/ 8/25 03:47	大雨注意報	解
	雷注意報	○
	濃霧注意報	○
2024/ 8/25 07:09	雷注意報	○
	濃霧注意報	解
2024/ 8/25 12:15	大雨注意報	●
	雷注意報	○
2024/ 8/25 15:50	大雨注意報	○
	雷注意報	○
	洪水注意報	●
2024/ 8/25 16:42	洪水警報	●
	大雨注意報	○
	雷注意報	○
2024/ 8/25 19:56	大雨注意報	○
	雷注意報	○
	洪水注意報	▼
2024/ 8/25 20:44	大雨注意報	○
	雷注意報	○
	洪水注意報	解

2024/ 8/25 22:53	大雨注意報	○
	雷注意報	○
	濃霧注意報	●
2024/ 8/25 23:15	大雨注意報	解
	雷注意報	○
	濃霧注意報	○

４　被害状況

表6-3-3　　令和６年８月24日～25日の大雨の被害

区分	被害（市集計）	地区、種類等※
農地等 （農地、農道、 農業用水路）	20,000千円	○農道 小田切２、芋井１、鬼無里１ 土砂流出 ○農業用水路 浅川２、芋井１、篠ノ井４、更北１、 戸隠１ 水路損傷、閉塞等 ○農地 芋井２、戸隠１ 法面崩落
林業関係 （林道等）	15,224千円	○林道 安茂里２、松代７、若穂１、信更１、 戸隠２、鬼無里５ 倒木、土砂崩落、路面洗堀他
公共土木施設 （市道、河川等）	100,667千円	○道路 第一２、小田切１、芋井３、更北１、 七二会２、戸隠24、鬼無里７、 大岡11、信州新町20、中条１ 路肩決壊、土砂崩落、倒木他 ○河川 小田切１、篠ノ井５、更北４、 戸隠２、大岡１ 土砂埋塞等

※被害発生箇所（地区名）＋件数を記載。発生箇所（件数）の特定が難しい場合は地区名のみを記載

表6-3-4　　罹災証明発行件数

災害番号	災害種別※		
	地震	風水害	雪害
06-３	０	０	０

※）災害種別は「火災・災害等即報要領」（消防庁長官）による

第３　避難指示等発令状況

(1) 令和６年中において災害に伴う避難指示等の発令はありません。

第４　災害年表

過去の主な風水害の記録

西暦	年　月　日	災　害　状　況
1989	平成元年４月24日	発達した低気圧の通過で市内全域で大雨、信更・芋井・浅川地区で土砂崩落や河川の水路決壊７件。被害総額3,370千円。
1989	平成元年７月16日	梅雨前線が県内を東西に横切って活発となり市内全域で大雨、芋井・浅川・七二会地区で土砂崩落や小河川の護岸決壊、埋塞等、公共土木19件、農業土木施設被害22件。被害総額111,835千円。
1989	平成元年７月22日	市西部の信更地区で激しい雷雨、公共土木施設14件、農業土木施設被害11件。被害総額24,460千円。
1989	平成元年７月24日	市西部を中心に激しい雷雨による豪雨、浅川三ッ出で地滑りを初め、篠ノ井・小田切・芋井・浅川・七二会地区で土砂崩落や河川の護岸決壊等の外、大豆島地区で小河川が越水。公共土木施設72件、農業土木施設被害79件。被害総額194,522千円。
1989	平成元年８月22日	寒冷前線南下に伴う大気不安定による豪雨。北部市街地のほぼ全域で内水氾濫による床下浸水多発、芹田・古牧・柳原・朝陽地区被害大。篠ノ井地区山間部で市道路肩決壊等の外、都市部は中小河川の水路埋塞、護岸決壊等被害大。住家の床下浸水218件、非住家床下浸水17件、公共土木関係被害26件。被害総額6,670千円。
1989	平成元年８月27日	台風第17号による大雨で吉田地区の小河川が溢れたため土のう積み。
1989	平成元年９月８日	市南部の松代地区で激しい雷雨による豪雨、蛭川上流の御林沢で土砂崩落発生し、各沢筋で、樹木を含み土石流となり、路肩決壊、沢筋の洗堀、埋塞等の被害大。公共土木関係30件、農業土木施設等40件、床下浸水被害１件。被害総額156,250千円。
1989	平成元年９月19日	台風第22号の通過と秋雨前線活動による豪雨、西部山間地の七二会・信更・小田切・芋井地区で公共土木関係24件、農業土木施設被害17件。被害総額33,292千円。
1989	平成元年10月３日	芋井の広瀬で横55m、縦40m、深さ40m、移動量5,000m^3～8,000m^{3}の地滑り発生。農道被害1件。被害総額4,581千円。
1991	平成３年３月９日	鬼無里瀬戸地籍崩落災害、国道406号全面通行止め。
1991	平成３年９月28日	台風第19号の日本海通過による強風、千曲川・犀川沿いに10m/s～16m/sの強風、市内綿内で最大瞬間風速41m/s、長沼32m/s、篠ノ井25m/s、気象台23m/s。道路被害２件、りんご・ぶどう被害総額1,540,311千円。非住家全壊12棟、住家・非住家一部損壊等28棟、塀・電柱・倒木104件、停電83戸、停電1,606件、電話不通70件の被害。
1992	平成４年７月７日	市西部の篠ノ井・七二会・信更地区を中心に激しい雷雨による豪雨、道路44件、河川１件、農業土木施設20件と信更で住家１棟一部損壊、篠ノ井で床下浸水４件、被害総額46,070千円。

西暦	年　月　日	災　害　状　況
1992	平成４年７月14日	市西部・東部を中心に激しい雷雨による豪雨、七二会・芋井地区で道路損壊35件、七二会で小河川14件、農業土木施設７件の被害。被害総額111,900千円。
1994	平成６年２月14日	本州の南岸を進んだ低気圧と冬型の気圧配置が続いた。このため信更町涌池で、長さ150m、幅50m、深さ5ｍ～10mに渡って地すべりが発生し、移動土量は約35,000ｍ^{3}であった。付近の５世帯10人が避難し、3月16日に解除になった。農林被害が中心で、被害総額は400,642千円。
1994	平成６年４月～８月	春から夏（４月～８月）にかけて少雨となり、干ばつにより農作物などの被害が発生した。被害総額は3,663,580千円。
1994	平成６年９月29日	台風第26号は近畿地方から日本海へ進み、強い風が吹走して長野・若穂・更北では果樹に被害がでた。長野地方気象台の最大瞬間風速は16.9m/s(WSW)で、被害総額は94,745千円。
1995	平成７年７月１日～７月22日	市北部（芋井・浅川・小田切地区）で雨量が多く、飯綱では７月11日～12日間の２日間で150mmの雨を記録。浅川は、富竹・吉田・三輪地籍堤防に大きな被害を受け、７月12日には善光寺温泉の裏山等、各地で土砂崩れが発生し、家屋にも被害が出た。長野市で全壊家屋２、半壊家屋２、一部損壊家屋３、床上浸水家屋５、床下浸水家屋５。 豊野の鳥居川で出水し、中島・堀地区で屋根まで浸水被害。戸隠も被害発生。鬼無里で道路各所が寸断される。大岡でも被害発生。
1996	平成８年６月24日	梅雨前線の活動が活発となって、長野市内では100mmを超える雨となった。被害総額112,270千円
1997	平成９年５月５日	低気圧による降雨で鬼無里濁川山地崩壊。被害額は林業関係1億円、公共土木施設9900万円。
1997	平成９年８月７日	集中豪雨、北陸沿岸に停滞していた前線に向って顕著な暖湿流が流れ込んで県北部を中心に大雨となった。長野市内の降水量は66mm。
1998	平成10年１月	南岸低気圧による大雪。長野市内では本州の南の海上を発達しながら通過した低気圧によって１月８日、１月11日、１月15日に大雪となり、果樹施設等に被害が多発した。
1998	平成10年９月15日	台風第５号。静岡県御前崎付近に上陸した台風第５号によって、県内では100mmを超える大雨となった。
1998	平成10年９月21日	台風第８号、７号が21日から22日にかけ相次いで長野県の西側を通過した。このため、強い南よりの風で果樹を中心に大きな被害が発生した。
1999	平成11年８月14日	熱帯低気圧が、県の東側に接近しながら関東地方を北上し、日本海に進んだ。広い範囲で大雨となり、長野市の降水量も72mmに達し、農作物、農地、公共土木施設に被害が発生した。
1999	平成11年８月20日	局地的な豪雨により、大岡で公共土木施設に700万円の被害。
1999	平成11年９月28日	20日から23日にかけては秋雨前線により、続いて24日には台風第18号の西日本通過により長野市では96mmの大雨が降った。この大雨により、篠ノ井下石川で地すべり被害が発生した。

西暦	年　月　日	災　害　状　況
2000	平成12年８月２日	上空にたびたび寒気が流入し、連日各地で雷雨が発生。２日は長野市周辺で激しい雷雨となり、篠ノ井で床下浸水、七二会で道路被害、篠ノ井･川中島で落雷による電話被害が発生。
2001	平成13年３月６日	３日から４日にかけては気温が上昇し､山間部では雪融けが進むなか、４日には本州南岸を進む低気圧により雨や雪が降った。この高温と降水で、浅川北郷で地すべりが発生した。
2002	平成14年６月11日	台風第４号の降雨により大岡で土砂崩落発生。公共土木施設に6,300万円の被害。
2002	平成14年７月15日	梅雨前線が本州上に停滞するなか、台風第７号が本州の南岸沿いを通過。連続４日間に渡り断続的に雨が降り、県西側の山沿いで100㎜～300㎜、平地でも40㎜～100㎜の降水。長野市も篠ノ井、菅平で100㎜、他も80㎜～100㎜に達し、芋井、篠ノ井、信里で水田等決壊10件、安茂里、信更で道路破損２件の被害発生。
2002	平成14年８月４日	上空に寒気流入で大気不安定。午後になって県内の広い範囲で激しい雷雨が発生。１時間降水量が信州新町で57㎜、長野市でも篠ノ井33㎜、信更32㎜、信里、寺尾で23㎜～26㎜の激しい雨。この短時間強雨で、篠ノ井で敷地内浸水２件、更北で土木被害発生。
2003	平成15年８月６日	上空に寒気流入で大気不安定。午後には県内の広い範囲で雷雨発生。長野市内も１時間降水量が信更で30㎜、信里28㎜、総降水量が七二会で41㎜、信更37㎜、信里35㎜と南西部で多量降雨。この短時間強雨で、信更で路肩決壊５件、七二会で路盤材流出１件の土木被害発生。
2004	平成16年２月23日	活発な前線が本州上を南下した。県内の広い範囲で20㎜～60㎜の降水。長野市でも全域で20㎜～30㎜の降水。この降水で融雪が進み、浅川で床下浸水１件、七二会、信更、小田切、浅川、篠ノ井、松代で、崩落が22件、土砂流出２件、埋塞１件の被害発生。
2004	平成16年７月10日	日本海から梅雨前線が南下し県内を通過した。県内は広い範囲で雷雨となり、標高の高い地域ではひょうを伴った。 長野市も全域で雷雨となって､ひょうを伴った所が多かった。また、午後７時までの１時間に篠ノ井で37㎜の激しい雨。この降ひょうで、安茂里、芋井、小田切、七二会の広い範囲で野菜や果樹への打ち傷など、農作物被害が発生。被害面積33.75ha、被害額 40,455千円

西暦	年　月　日	災　害　状　況
2004	平成16年10月９日	９月は秋雨前線と、度重なる台風接近の影響で頻繁に大雨が発生。信更町の月降水量は221㎜で、長野の９月の平年降水量130.1㎜を大きく上回る170%に。10月も５日までに信更町で合計63㎜の降水。さらに８日から９日には台風第22号が伊豆半島を通過した影響で合計81㎜の降水があり、信更町の９月１日からの累積降水量は370㎜に達した。９月より続いた多量降水に加え、10月８日から９日にかけての台風による大雨が引き金となって、信更町安庭では９日17時過ぎに大規模な地すべりが発生し、国道19号線が脇を流れる犀川に陥没して上下線とも通行不能に。また、国道脇の民家１棟と店舗１棟も巻き込まれて全壊するなどの被害が発生した。また、県内の広い範囲で多数の被害が発生した。
2004	平成16年10月20日	秋雨前線が停滞するなか、大型で強い台風第23号が四国、近畿地方を通過後、夜遅くに長野県の南部を通過した。この影響で、南部の西側地域で200㎜～300㎜、県内全般に120㎜～180㎜の大雨に。長野市も全域で120㎜～140㎜に達する大雨。また、県内各地で最大風速が10 m/s前後の強い風が吹き、長野地方気象台で最大瞬間風速20.0 m/sの強風を観測。この大雨と強風により、信更で住家の一部破損が１件発生、また柳原、朝陽、若槻、篠ノ井、松代、若穂、信更で計80件の床下浸水が発生したほか、広い範囲で土木関係、農業関係、林業関係、都市施設、観光施設他に多くの被害が発生した。また、安茂里小市地区40世帯と柳原布野地区200世帯に避難勧告がでた。
2005	平成17年４月７日	12月及び１月にたびたび強い寒気が南下して冬型の気圧配置が強まって雪が降り、北部では記録的な大雪となった。長野市でも頻繁に雪が降り、12月及び１月の降水量はいずれも平年を上回り、これが積雪となって残った。これらの積雪が３月に入って融雪し、地面には例年より多くの水分がしみ込んで地盤が緩んでいた。気温の上昇で雪が融けたこと、また降水が加わったことが引き金になって芋井新安地区で地すべりが発生。道路損壊被害１件。
2005	平成17年４月８日	12月及び１月にたびたび強い寒気が南下して冬型の気圧配置が強まって雪が降り、北部では記録的な大雪となった。長野市でも頻繁に雪が降り、12月及び１月の降水量はいずれも平年を上回り、これが積雪となって残った。これらの積雪が３月に入って融雪し、地面には例年より多くの水分がしみ込んで地盤が緩んでいた。気温の上昇で雪が融けたこと、また降水が加わったことが引き金になって鬼無里日影大久保地区で地すべりが発生。自主避難１世帯１人。

西暦	年　月　日	災　害　状　況
2005	平成17年８月２日	日本海に停滞する前線に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、午後には大気の状態が非常に不安定となり、県内の広い範囲で激しい雷雨が発生した。１時間降水量は鬼無里で36mmの激しい雨を観測したほか、信濃町で29mm、笠岳で28mmの強い雨を観測。２日の日降水量は鬼無里で82mm、信濃町と長野で50mmを超える大雨となった。松代地区で住宅１棟が床上浸水。信更町涌池で土砂崩落による市道が損壊。公共土木施設に被害。
2005	平成17年９月７日	台風第14号が強い勢力を保ったまま北上し、６日には九州に上陸、その後７日日中に速度を速めながら日本海の能登半島沖を北東に進み、７日正午ころ県内に最も接近した。台風の接近で、本州上に停滞していた前線の活動が活発となり、県内では４日から広い範囲で雨が降り始め、４日夜から５日朝にかけ、所々で１時間に10mm～20mmの強い雨が降るなど５日は終日に渡って降り続いた。雨は６日にはいったん小康状態となったが、７日には中部と南部及び北部の西側地域で再び雨が降り、昼前には１時間降水量が10mm～15mmのやや強い雨が降ったが夜遅くには止んだ。４日降り始めから７日までの降水量は、菅平で90mmとなったのを始め、信里地区で76mm、地蔵地区で70mmなどとなった。また、台風が速度を速めながら県の西側を通過した影響で、最も接近した７日日中には県内全域で風が強まり、長野地方気象台では最大風速10.5ｍ/sの強風を観測。農作物被害67,257千円
2006	平成17年12月～ 平成18年２月	平成17年12月から１月は、強い冬型の気圧配置となって、北部の山沿いを中心に大雪が降った。月降雪量は、平年と比べて北部で多くなった。２月は、上旬に上空に強い寒気が流れ込んで、北部では大雪の日があった。月降雪量は、北部は平年より少なかった。屋根からの落雪や転落により人的被害多発。死者１人。重軽傷者18人。その他建物等への被害33件。
2006	平成18年３月22日	３月は、低気圧が本州付近を度々通過し、雨の降る日が多く、長野の降水量は中旬にかけて平年よりもかなり多い状況となっていた。また、気温は上旬が平年よりも高くなっていた。３月の上旬や中旬に降った雨や気温の上昇による雪解けの影響で地盤が緩んだため、七二会五十平で地すべりが発生。

西暦	年　月　日	災　害　状　況
2006	平成18年３月25日	３月は、前半を中心に雨の降る日が多く、長野の降水量は中旬にかけて平年よりもかなり多い状況となっていた。また、長野市の25日までの月全体の気温変化を見ると、最高気温は平年よりも高い日が多くなっていた。気温の上昇や降雨により地盤が緩み、七二会善福寺で地すべりが発生した。自主避難１世帯１人。非住家一部損壊１件、全壊１件。
2006	平成18年７月18日	７月15日から降り続いた雨のため、18日～19日にかけて長野市内で床下浸水・土砂災害等の被害が多発した。下大岡地区では、犀川の増水による浸水の恐れがあり、７世帯16人に対し避難勧告が出た。篠ノ井・信更・若槻・柳原・浅川・豊野・大岡では24世帯49人と施設利用者19人が自主避難した。また、七二会五十平地籍では、この豪雨が原因と思われる地すべりが23日に発生した。農作物被害342,786千円、道路河川被害850,250千円、農業用施設・農地被害131,220千円、体育施設131,770千円、その他93,072千円。
2007	平成19年４月４日	30日から31日にかけては寒冷前線の通過に伴い、県内は所々で雷を伴ってやや強い雨が降り、鬼無里では30日から31日の２日間で56㎜の雨が降った。この雨に加え、長野市の３月平均気温が上旬と下旬を中心にかなり高い状態だったことが雪解けを促し鬼無里で地すべりが発生。
2007	平成19年５月	５月は頻繁に本州付近を低気圧や前線が通過し、上旬と下旬を中心に月降水量は平年を上回った。七久保では平成16年10月20日に台風第23号により一部土砂が裾花川に押し出される大規模な地すべりが発生し、その後県による対策工事が施されていた。しかし、５月に入り度々降った雨が引き金となって地盤が緩み、再び地すべりが発生。
2007	平成19年７月16日	16日午前10時13分頃、新潟県中越沖（新潟市の南西約60キロ）を震源とする強い地震があり、新潟県柏崎市・長岡市・刈羽村で震度６強を観測した。長野県内は、上水内郡飯綱町で震度６強を、中野市・飯山市・信濃町・飯綱町牟礼で震度５強を、長野市戸隠で震度５弱を記録した。重軽傷者３人、住家一部破損15件など計150件の人的及び住家の被害。
2007	平成19年10月28日	26日に台風第20号は九州のはるか南海上を北上、27日朝には紀伊半島の南海上に達した。また、本州の南岸に停滞する前線は、台風の接近に伴い活動が活発となった。これに伴い、長野市でもまとまった雨が降り、27日の長野市の日降水量は40㎜を観測し、平年の日降水量の20倍近い雨量となった。10月に入ってからの度重なる降水や台風第20号の雨により地盤が緩み、芋井桜で地すべりが発生。自主避難５世帯11人。路肩崩落など公共土木施設に被害。

西暦	年　月　日	災　害　状　況
2008	平成20年８月５日	三陸沖から関東にかけ前線が停滞し、前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となった。このため、夕方から局地的に激しい雨が降り、松代では床下浸水が３件発生した。
2008	平成20年８月13日～８月14日	日本海に前線が停滞、前線の南には熱帯低気圧が湿った空気を持ち込み、大気の状態が不安定に。雷を伴い局地的に短時間に激しい降雨となった。13日～14日にかけては所々で１時間に20mm～30mmの強い雨を観測。七二会で市道９件、浅川で河川１件の被害発生。土木被害1,200千円。
2008	平成20年８月29日～８月30日	日本付近には前線が停滞し、大気の状態が不安定となった。このため、29日午後から30日朝にかけ、局地的に激しい雨が降った。松代では床下浸水が３件発生した。
2009	平成21年５月27日	上空の寒気流入で大気の状態が不安定になった。局地的に雷雨となり、ひょうを伴った所もあった。篠ノ井や松代で降ひょうによる被害発生。被害面積63ha、被害額11,413千円。
2009	平成21年６月16日	日中の気温の上昇と上空の寒気の影響で午後は大気の状態が不安定となり、局地的に雷を伴い、短時間に激しい雨が降った。長野市内でも信里で１時間に44mmの激しい雨を観測したのをはじめとし、夕方まで不安定な空模様が続いた。この影響で、浅川、長沼、篠ノ井、信更、豊野では市道の冠水やひょうによる農作物の大きな被害が発生。土木被害は、市道７件、河川１件、被害額4,800千円。農業被害は、被害面積105.7ha、被害額44,335千円。
2009	平成21年７月31日	強い日射と湿った空気の影響で午後は大気の状態が不安定となった。長野市内も雨が降り、鬼無里では19時までの１時間に41mmの激しい雨を観測した。この影響で、土砂崩落などが発生し、市道21件と河川２件に被害が発生。被害額61,200千円。
2009	平成21年８月６日～８月７日	高気圧に覆われたが、南の海上から湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となった。７日15時までの１時間に松代で35mmの激しい雨を観測。また、この２日間で戸隠では154mmの雨を観測。この大雨で、戸隠では路肩崩落、半壊１件、床上浸水２件が発生。その他の地区にも床下浸水14件、農作物被害2,475千円、農業施設被害123,000千円、土木被害442,220千円が発生。
2009	平成21年	平成21年４～５月頃、篠ノ井山布施（秋古地区）の国道19号歩道において、隆起・縁石の傾きなどの変状を約20mにわたり確認し、応急対策を実施。斜面のボーリング調査の実施や伸縮計・地下水位の観測をした。その後、有識者による現地診断や（独）土木研究所による調査を実施。調査の結果、原因は上部の民有地に盛り土をしたことや地下水の上昇により、地すべりが発生したと思われる。盛り土・地下水の排除や、計測機器による監視等の警戒態勢を実施。

西暦	年　月　日	災　害　状　況
2010	平成22年７月１日	上空の寒気流入で大気の状態不安定となった。長野市内も降水となり、信更では21時までの１時間に33mmを観測するなど、雨は翌２日の未明まで降り続いた。この雨で、市道７件に土木被害、また床下浸水が４件発生。
2010	平成22年７月９日	本州付近には３日に梅雨前線が延び、その後やや南下し、太平洋側に停滞した。上空には寒気も流れ込み、大気の状態は不安定となった。このため、戸隠では７日の18時までの１時間に36mmの激しい雨を観測するなど、１日～９日の９日間の降水量は戸隠で123mm、鬼無里で102mmとなった。鬼無里の裾花川上流では山腹が崩落。清水沢では一時水がせき止められ、天然ダム湖が形成された。
2010	平成22年７月16日	梅雨前線が東北まで北上、県内には南から湿った空気が流れ込み、北部中心に雷を伴い激しい雨が降った。１時間降水量は、信里で63mmの非常に激しい雨、鬼無里で49mm、豊野で43mmの激しい雨を観測するなど、多くで大雨となった。この大雨により多くの災害が発生。農作物被害12,953千円、農業施設被害559,000千円、土木被害763,890千円。また、人的及び住家の被害は、全壊１件、一部損壊１件、床上浸水５件、床下浸水78件、自主避難60人。
2010	平成22年８月31日	高気圧に覆われたが、南から台風第７号の接近に伴う湿った空気が流れ込み、午後は大気の状態が不安定となり、雷を伴って雨が降った。１時間降水量は、安茂里で58mmの非常に激しい雨、篠ノ井で37mm、長野地方気象台で36mmを観測した他、市内の多くの地点で強い雨や、やや強い雨となった。第５、安茂里、川中島では床下浸水７件が発生。
2011	平成23年５月29日	台風第２号が本州南岸に停滞していた前線を刺激し、長野市内で29日だけで100mを超す大雨となったところもあった。この雨で市内広範囲で住宅被害が7軒、農地・農作物被害が１億円を超すなど大きな被害が多発したが、人的被害はなかった。
2011	平成23年７月11日	大気の状態が不安定になって、市内では夕方から局地的に激しい雨が降り、場所によってひょうも降った。この影響で山際に近い地域を中心に、住宅被害11棟、農作物に35,478千円、農地等に36,000千円、公共土木施設に51,500千円の被害が発生した。
2011	平成23年８月14日	日中は猛暑となったが、午後は大気の状態が非常に不安定になって、16時前後に雷を伴った強雨や局地的な強風も吹いた。この影響で長野市南東部を中心に、住家22件、農作物や農地関係で300～400万円、公共土木施設にも被害が発生した。

西暦	年　月　日	災　害　状　況
2012	平成24年１月 ～３月	しばしば冬型の気圧配置になって降雪があったが、１月～３月にかけて降雪量は平年より少なく、構造物や土地の被害は無かったが、芋井で死者が出るなど、人的災害があった。
2012	平成24年７月20日	暖かく湿った空気が流れ込んで、大気の状態が非常に不安定となり、長野市役所で時間雨量48㎜を記録するなど、市内各地で強雨を観測し、中心部を中心に浸水や道路などの公共土木施設に被害が発生した。
2013	平成25年３月18日	発達中の低気圧の影響で長野市では、午後を中心に南寄りの強風が吹き、広範囲で人的被害（軽傷）や構造物の被害が発生した。
2013	平成25年４月22日	周期的に移動性高気圧に覆われ、長野地方気象台では、４月21日、22日、23日と連続して最低気温が氷点下になった。この低温の影響で、広範囲で合わせて３億円を超す農作物被害が発生した。
2013	平成25年９月16日	愛知県に上陸して長野県南部を通過した台風第18号によって、長野市内では各地で大雨となった。この雨により、住家、農作物、農地等、林業関係、公共土木施設に大きな被害が出た。
2014 県H26-1	平成26年１月 ～３月	（雪害） 期間を通して降雪機会が少なく、合計の降雪量も少なかった。しかし、短い間ではあったが２月に南岸低気圧の影響で長野県の南部や東部を中心に記録的な降雪となり、長野市内でも70cmを超す積雪となって、死者１人、重軽傷者のほか農業関係の被害があった。
2014 県H26-25	平成26年11月22日	（長野県神城断層地震） 11月22日 22時08分頃、長野県北部を震源とする地震(マグニチュード 6.7)が発生した。この地震で、長野市で震度６弱を観測するなど、県北部を中心に大きな震度となった。 この地震により、住宅の全壊や半壊などの大きな被害が発生したが、死者は１人も出なかった。
2014 県H26-26	平成26年12月	（雪害） 冬型の気圧配置や低気圧の影響で雪や雨の日が多かった。とくに中旬は冬型が強まり、平野部で40cm～60cm、山沿いでは100cmを超す大雪になった。この大雪で、重傷３人、軽傷４人のほか、農業施設に被害が出た。
2015 県H27-1	平成27年１月 ～３月	（雪害） 期間を通して寒気の南下が弱く、冬型の気圧配置も長続きしなかったが、１月中旬から下旬前半にかけて強い寒気が南下し、冬型の気圧配置が強まり大雪となった日があったほか、２月にも大雪となることがあり、重傷３人、軽傷８人の人的被害があった。
2015 県H27-26	平成27年９月８日 ～９月10日	（台風第18号） 台風第18号は、日本の南海上から愛知県西尾市付近に上陸した。その後北上を続けて日本海に進み、温帯低気圧に変わった。この台風により長野県内は、８日から10日かけて広い範囲で影響を受けて大雨と豪雨が発生した。この大雨と豪雨で、非住宅関係被害１件のほか、芋井、鬼無里、信州新町で農業関係被害も発生した。

西暦	年　月　日	災　害　状　況
2016 県H28-1	平成28年１月 ～３月	（雪害） 期間を通して全般に晴れる日が多く、期間を通して降雪量も少なかったが、短期間でも大雪となることがあった。とくに１月中旬に数日降り続いたときは100cmを超す降雪となったところもあり、除雪作業中に長野市で重傷３人、軽傷２人の被害があったほか、農業関係被害も発生した。
2016 県H28-11	平成28年８月22日 ～８月27日	（台風第９号・豪雨） 台風第９号が伊豆諸島付近を北上した後、房総半島から東北地方に進んだ。この影響で長野県内では佐久地域を中心に雨が降った。その後は気圧の谷や湿った空気の影響、また、26日は寒冷前線の影響もあって長野市内も大雨となり、この間の合計雨量が 100mm近くとなったところもあった。この大雨で大岡と中条において農作物及び農業施設と道路に被害が発生した。
2016 県H28-15	平成28年10月５日 ・10月６日	（台風第18号・強風） 台風第18号が、対馬海峡から日本海に入り、能登半島付近で温帯低気圧に変わった後、三陸沖へ進んだ。これに伴って長野市内も南西の強風が吹き、農作物等や農業施設の被害が発生した。一方で、降雨は県の南部が中心で、長野市内では、ほとんど降らなかった。
2017 県H29-1	平成29年１月 ～３月	（雪害） 冬型の気圧配置になることはあったが、あまり長続きせず、全般に寒気の南下は弱く、気温の高い日が多かった。期間を通して降雪量も平年の半分以下のところもあり、最深積雪が１mを超したのも観測所の中では１箇所だけだった。雪による災害としては、除雪作業中における人的被害のほか、農業用施設への被害があった。
2017 県H29-12	平成29年６月29日 ～７月14日	（台風第３号・豪雨） 台風第３号が本州付近に停滞していた前線を刺激して各地に雨をもたらせた。前線が南下した後は大気が非常に不安定な状態になった。これらの影響で期間の前半と後半に大雨が降り、三才では、１時間雨量が 74mm という豪雨となった。この大雨で住家や、林業、公共土木施設に大きな被害が発生した。なお、この台風による風の被害はなかった。
2017 県 H29-15,16	平成29年８月11日 ～８月18日	（豪雨） この間、日本付近は気圧の谷に入り、長野市内も雨の降りやすい状態が長い時間続き、期間の前期と後期に大雨となった。期間中は所々で時間雨量が 50mm を超す強雨も発生し、総雨量では 200mm を超したところもあった。この雨で、山間部を中心に住宅被害が発生したほか、平野部でも道路を中心に公共土木施設に被害が発生した。
2017 県H29-18	平成29年10月21日 ～10月23日	（台風第 21 号） 超大型で非常に強い台風第 21 号が日本の南を北上し、南海上前線を刺激しながら静岡県掛川市付近に上陸した。長野市内では、22 日未明から雨が降り始め、23 日の朝まで続いた。風は 22 日夕方から強まり始め、23 日の夜まで続いた。この影響で長野市西部を中心に、3000 世帯以上、1 万人以上の住民に対して避難勧告が発表されたほか、公共土木施設の被害や倒木が発生した。

西暦	年　月　日	災　害　状　況
2018 県H30-1	平成30年１月 ～３月	（雪害） １月から２月の中旬までは冬型の気圧配置や南岸低気圧により雪の降る日が多かったが、２月下旬からは高気圧に覆われ晴れた日が多くなった。市内では落雪と除雪作業中の転倒により軽傷２人の被害報告があった。
2018 県H30-6	平成30年４月６日	（強風） ６日は、前線を伴った低気圧が、発達しながら対馬海峡から日本海や北陸を通過し東北へ進んだ。長野県内でも低気圧に向かって南寄りの強い風が吹き、長野地方気象台では最大瞬間風速21.7m/sを記録した。長野市大豆島では強風が原因で１人が軽傷を負う被害があった。
2018 県H30-6	平成29年８月11日 ～ 平成30年５月29日	（地すべり） 地すべりが発生した中条地区の観測所では、平成29年８月と10月にそれぞれ200㎜と300㎜を超える雨が降り、災害発生前３ヶ月間の月降水量も100㎜を超えた。地すべりにより公共土木施設に被害が発生した。
2018 県H30-15	平成30年６月27日 ～７月11日	(梅雨前線豪雨) この期間、日本付近に前線が停滞した。とくに７月５日から８日にかけては本州のほぼ真上に停滞して前線に向かって台風第７号や８号から暖かく湿った空気が流入し、西日本を中心に記録的な豪雨となり後に、気象庁により「平成30年７月豪雨」と命名された。長野県内でもこの間、県の西側や南部を中心に300㎜を超す大雨になり、長野市内でも土砂災害警戒情報が発表された。この豪雨で、市内の広い範囲で、農地、農道、農業用水路、市道、河川等の公共土木施設の被害が、鬼無里では林道等に被害が発生した。
2018 県H30-16	平成29年10月22日 ～ 平成30年６月29日	（地すべり） 期間中の市内平均の月降水量は平成29年10月に250㎜をこえ、平成30年の３月～５月の合計降水量も１00㎜近くになった。地すべりにより農地等に被害が発生した。
2018 県H30-23	平成30年９月４日 ～９月６日	（台風第21号） ８月28日に発生した台風第21号は９月４日に徳島県南部に上陸し、日本海を北上して温帯低気圧となった。県内では南部を中心に大雨となり、台風が長野県の西側近くを通ったことによる強風の被害も発生した。市内では戸隠や鬼無里で期間内の降水が40㎜を超えた。また、南寄りの強い風が吹き、豊野局の最大風速は10.1m/sとなった。この台風により市内各地で住家や農作物、農地、林業、公共土木施設に被害が出た。
2018 県H30-23	平成30年９月30日 ～10月１日	（台風第24号） ９月21日に発生した台風第24号は、30日に大型で強い勢力で和歌山県に上陸し、長野県を横切って北東へ進んだ。また、日本付近にあった前線を刺激して県内でも南部を中心に広く大雨となった。長野市内では30日夜から１日未明にかけて雨が強まり短時間だが50㎜ほどの雨量になった。記録では、上記雨の強かった時間帯は風が弱く、降雨の前後で風速が増した。市内では農作物、農地、林業、公共土木施設に被害が生じた。

西暦	年　月　日	災　害　状　況
2019 県R01-1	平成31年１月 ～３月	（雪害） 冬型の気圧配置が長続きせず、北からの寒気の流入が弱かったため、各地で気温は平年より高く降雪量は少なかった。市内では除雪作業中の事故と雪下ろし作業中の転落により重症２人の被害報告があった。
2019 県R01-3	平成31年２月24日	（地すべり） 発災当日は高気圧に覆われ降水はなかった。また、発災の５日前に17㎜の降水があったが他に目立った降水はなかった。しかし２月14日以降気温は上昇傾向となり、積雪量は減少傾向となった。24日に戸隠で地すべりが発生し、道路に被害が出た。
2019 県R01-13	令和元年７月23日 ～７月25日	（梅雨前線豪雨） 日本付近に湿った空気が流れ込み、上空にこの時期としては強い寒気が入って大気が不安定となる状態が続いた。とくに25日は熱帯低気圧が日本の南を北上し、県内の所々で激しい雨となった。長野市では北西部と南東部で降水量が多く、それらの地域で25日の夜に強い雨が降って、農地や公共土木施設に被害が発生した。
2019 県R01-13	令和元年７月28日 ～７月29日	（豪雨） 27日に三重県に上陸した台風第６号は熱帯低気圧となって本州を通過し、28日には関東の東の海上へ進んだ。その後は全国各地でよく晴れたが、所々で大気の状態が不安定となり、長野市内でも南東部を中心に短時間にまとまった雨が降った。この大雨により農地や林業に被害が発生した。
2019 県R01-17	令和元年８月６日	（突風） 台風第８号が九州地方を北上したが、長野県内は太平洋高気圧に覆われ各地で猛暑日となった。市内でも気温上昇に加え、高気圧からの縁辺流や台風接近による暖かく湿った空気の流入により大気の状態が不安定となり、積乱雲が発達して突風による被害が生じた。
2019 県R01-27	令和元年９月23日	（台風第17号） 台風第17号は９月19日に発生し22日に対馬海峡を抜けて23日９時に日本海で温帯低気圧となった。この低気圧に向かって南寄りの強い風が吹いた。この強風により市内では死者１人、軽傷１人の人的被害が出たほか、農作物、農地、林業にも被害が発生した。
2019 県R01-28	令和元年10月12日 ～10月13日	（令和元年東日本台風） 台風第19号は10月６日に発生し12日の夜に関東地方を通過し、13日の昼頃日本の東で温帯低気圧となった。後に「令和元年東日本台風」と命名されたこの台風の接近・通過に伴い東日本の各地で大雨・暴風・高波・高潮となった。県内では初めて大雨特別警報が発表されるほどの大雨となり、千曲川流域では堤防の決壊や氾濫により激甚な被害が生じた。市内でも千曲川堤防の決壊や越水、その他の河川の内水氾濫等により浸水被害が発生し、死者２人のほか、住家、各種都市基盤（インフラ）、商工業、農業等が甚大な被害を受けた。
2019 県R01-30	令和元年10月21日 ～10月22日	（地すべり） 台風第20号から変わった温帯低気圧が本州南岸を通過し、信州新町では10月21日の夜から22日の朝にかけて大雨となった。信州新町の一倉田和で22日に地すべりが発生し、さらなる地すべりの危険があったため、２世帯５人が避難することとなった。

西暦	年　月　日	災　害　状　況
2020 県R02-1	令和２年１月 ～３月	（雪害） 冬型の気圧配置は長続きせず天気は数日の周期で変化した。また寒気の流入が弱かったため気温は高く、とくに１月は月平均気温が統計開始以来高い方から１位の値を更新した。降雪も少なく、標高の低い地域では積雪なしの日も多かった。しかし短期間ながら多量の降雪となることもあり、３月下旬には市の西部方面で日降雪量が30cm近くなったところもあった。 雪により、農作物等に被害が発生した。
2020 県R02-8	令和２年７月	（豪雨） ７月３日から31日にかけて日本付近に停滞した活発な梅雨前線の影響で、九州地方から東日本にかけての広い範囲で記録的な大雨となり、長野県や熊本県を含む７県に大雨特別警報が発表された。 長野市内でもこの間、ほぼ毎日のように降雨があり、日降水量も平年を上回る日が多かった。中でも８日にとくに降水量が多くなったが、他に４日、６日、15日、21日でも大雨となった。この大雨で人的被害こそなかったものの、道路や河川といった公共土木施設や農林関係に大きな被害が発生した。また８日には市の南西部に避難指示が発表された地区があった。
2020 県R02-14	令和２年９月10日 ～９月11日	（豪雨） ９月９日から11日にかけて日本の南海上にあった前線が北上して大気の状態は非常に不安定となり、長野市内でも豪雨が発生した。期間中の合計降水量としては多いところで60mm程度と特記するほどの大雨ではなかったものの、短時間の豪雨によって、長野市内でも林業関係と公共土木施設（市道、河川）に被害が発生した。
2021 県R03-1	令和３年１月 ～３月	（雪害） １月は上旬に断続的に強い寒気の影響を受けたが、下旬以降寒気の影響を受けにくかった。長野県では北部山沿いを中心に大雪となった日もあったが、降雪量は平年より少ない地点が多かった。２月は長野県では上旬と中旬に大雪となったところがあったものの、月降雪量は各地で平年を下回った。この期間中、長野市内では、除雪作業中の転倒などによる人的被害や、林業関係に被害が発生した。
2021 県R03-10	令和３年６月22日	（大雨） 梅雨前線が本州の南に停滞し、さらに本州上空には寒気が流れ込み、午後は大気の状態が不安定となった。長野市内では夕方から夜にかけて局地的な雨雲が発達し、市内の観測所では１時間に30mm以上の激しい雨を観測したところがあった。また、大岡付近では18時40分までの１時間に約110mmの雨が解析され、長野地方気象台から「記録的短時間大雨情報」が発表された。この大雨により、大岡で床下浸水が発生し、豊野では農地に被害が生じた。また、市内各地で林業関係や公共土木施設にも被害が発生した。
2021 県R03-15	令和３年７月10日 ～７月12日	（大雨） この期間、本州付近に停滞した梅雨前線の活動が活発だった。さらに上空の寒気に加えて、長野では最高気温が３日とも30℃近くまで上がったこともあり、夕方から夜にかけて大気の状態が非常に不安定な日が続いた。松代支所で11日14時までの１時間に54.0mmの非常に激しい雨を観測するなど、各地で短時間に強い雨が降り、松代で床下浸水による住家被害が起きたほか、市内各地で農作物や公共土木施設などに被害が生じた。

西暦	年　月　日	災　害　状　況
2021 県R03-29	令和３年８月12日 ～８月19日	（８月豪雨） 12日から15日にかけては本州付近に前線が停滞し、前線に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込み大気の状態が不安定となった。この影響で、長野県内は中部や南部を中心に記録的な大雨となった。その後も日本海まで北上した前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、長野県内も断続的な雨となり、19日まで土砂災害に警戒が必要な状態が続いた。 長野市内では、12日の夜に各地で短時間に強い雨が降り、15日の昼頃まで断続的な雨となった。16日は小康状態となったものの、再び17日から18日にかけて雨が降り、期間中の合計降水量は、市の西側を中心に多くの観測所で200㎜を超えた。この期間中、市内各地で農作物等や林業関係、公共土木施設への被害が生じた。
2022 県R04-1	令和４年１月 ～３月	（雪害） １月から２月にかけての日本付近は、冬型の気圧配置となり、上空の強い寒気の影響を受けた日が多かった。また２月上旬には南岸低気圧による大雪となった日もあった。これらの降雪による影響で、長野市内では林業関係に被害が発生したほか、２月には門沢で住家が一部損壊する被害も発生した。
2022 県R04-16	令和４年７月16日 ～７月17日	（大雨） 活発な梅雨前線が九州から東北にかけてほぼ停滞し、本州では大気の状態が非常に不安定となった。長野市内では16日の夕方から雨が降り始め、戸隠地区を中心に局地的に発達した雨雲の影響で降水量が多くなり１時間降水量が30㎜を超えた地点もあった。この大雨により、浅川、鬼無里など計６箇所で道路に法面崩落や倒木の被害が発生した。また、鬼無里、大岡の計２箇所で河川に土砂埋塞の被害が発生した。
2022 県R04-18	令和４年７月27日	（大雨） 日本の東の海上から北日本に停滞前線が延びていた。また、太平洋高気圧の縁を廻る暖かく湿った空気が前線に向かって流れ込んだこともあり、広い範囲で大気の状態が不安定になった。長野市内では26日夜から27日未明にかけて局地的に雨雲が発達し、戸隠地区や鬼無里地区では１時間降水量が40㎜を超える大雨となった地点があり、とくに戸隠では27日１時までの１時間降水量が60㎜に達する非常に激しい雨が降った。この大雨により市内では床下浸水３棟のほか、農作物や農地、公共土木施設などに被害が発生した。
2022 県R04-23	令和４年８月６日	（大雨） 日本の南に張り出した太平洋高気圧の縁を周る暖かく湿った空気や上空の寒気の影響で、西日本や東日本を中心に大気の状態が不安定となり、局地的に激しい雨が降った。長野市内では、日中は晴れて強い日差しとなり、長野地方気象台では最高気温33.2℃を記録し真夏日となった。その後夜は大気の状態が不安定となり、発達した雨雲が中条地区や鬼無里地区などに停滞し、日影では21時までの１時間降水量が59㎜に達する非常に激しい雨が降った。この大雨の影響で住家や公共土木施設などに甚大な被害が発生し、中条地区では１名の人的被害も発生した。

西暦	年　月　日	災　害　状　況
2023 県R05-5	令和５年５月７日 ～５月８日	（大雨） 本州付近には前線が停滞し、前線上を低気圧が通過した。この前線や低気圧に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となった。長野市では７日未明から８日朝にかけて広く雨となった。雨の強さに関しては、最大１時間降水量が10～11㎜となり、やや強い雨となった地点はあったものの、極端な強雨となった地点はなかった。しかし、降雨時間が概ね７日未明から８日朝と長時間に及んだことで、累加降水量は中条や信州新町地区などを中心に100㎜を上回った地点もあり、長野地方気象台では７日の24時間降水量が75.5㎜となり、統計開始以降５月としての第１位を記録した。この大雨により信州新町では住家等への被害が生じ、市内各地で道路や河川、農地に被害が生じ、農道、林道の一部において法面崩落等の影響で通行止めとなる箇所も生じた。
2023 県R05-8	令和５年６月２日 ～６月３日	（大雨） 本州付近に停滞する前線と台風第２号からの暖かく湿った空気の影響で、大気の状態が不安定となった。長野市では１日夜遅くから雨が降り出し、３日未明にかけて広く雨が降った。雨の強さに関しては、最大１時間降水量は10㎜以下となり、極端な強雨とはならなかったが、降雨時間が１日夜遅くから３日未明にかけてと長時間に及んだことで、累加降水量は60㎜前後の大雨となった。この大雨により市内各地で道路や河川に被害が生じ、一部の市道や林道では規制や通行止めも生じた。
2023 県R05-10	令和５年６月30日 ～７月１日	（大雨） 梅雨前線が日本海から本州付近に停滞し、前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となった。長野市では１日午後を中心に各地で雨が降った。特に鬼無里や中条、信州新町地区では最大１時間降水量が40㎜前後の激しい雨を観測し、累加降水量も同地区などで100㎜前後の大雨となった。この大雨により中条や信州新町では住家等への被害が生じ、各地で道路や河川での路肩決壊や法面崩落が生じ、市道や農道、林道への道路規制も生じた。
2023 県R05-18	令和５年８月17日	（大雨） 北海道の西を北上する台風第７号に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となった。長野市では夕方を中心に雨が降り、最大１時間降水量は浅川地区などを中心に30㎜以上の激しい雨を観測した。また累加降水量は同地区などを中心に60㎜前後の大雨となった。この大雨により稲田や三輪などで道路の冠水被害が８件生じ、南千歳町では建物の床上・床下浸水の被害が４件生じた。また、浅川や芋井、戸隠などでは土砂崩落等による道路や河川の被害も生じた。
2024 県R06-2	令和６年１月１日	（能登半島地震） １月１日16時10分に石川県能登地方の深さ16kmでM7.6の地震が発生し、石川県輪島市及び志賀町で震度７を観測したほか、北陸地方を中心に北海道から九州地方にかけて震度６強から１を観測した。長野市内では豊野町豊野で最大震度５弱を観測し、人的被害こそなかったものの、住家や公共施設などに被害が発生した。道路の通行止めや列車の運休など交通への被害も発生した。

西暦	年　月　日	災　害　状　況
2024 県R06-9	令和６年５月27日 ～５月29日	（大雨） 27日に前線を伴った低気圧が日本海からオホーツク海へ進み、28日～29日には後続の低気圧が東シナ海から本州を通過して日本の東へと進んだ。この期間は北上していた台風第１号や日本の東から張り出した太平洋高気圧の影響で、低気圧や前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込みやすく、全国的に大気の状態が不安定となった。長野市では28日を中心に大雨となり、地蔵峠や豊栄小学校では３日間の累加降水量が100㎜に達した。長野地方気象台では28日の日降水量が75.5㎜となり５月として統計開始以来１位の値を更新した。この大雨により市内各地で道路や河川、農地、林道などに被害が発生した。
2024 県R06-26	令和６年８月24日 ～８月25日	（大雨） 太平洋高気圧が日本の東から張り出し、その縁を回って流れ込む台風第10号由来の暖かく湿った空気や、日中の昇温の影響で全国的に大気の状態が不安定となった。長野市では24日の夜のはじめ頃や25日の夕方を中心に雷を伴った大雨となり、飯綱浄水場や富士ノ塔、戸隠支所の観測地点では1時間降水量が50㎜を超える非常に激しい雨が降った。この大雨により、戸隠や信州新町を中心に道路で路肩決壊や土砂崩落、倒木が発生し、河川や農地、林道にも被害が発生した。

第５　資　　料

１　長野市の地勢概要 ･･･ 資料3
２　長野市の気象概況 ･･･ 資料4
３　長野における気象要素平年値･･ 資料4
４　長野における気象要素極値･･ 資料5
５　長野市内及び周辺雨量等観測所一覧･･････････････････････････････････ 資料6
６　長野市内及び周辺雨量観測所配置図･･････････････････････････････････ 資料9
７　用語解説 ･･･ 資料10

第５　資料

１　長野市の地勢概要

長野市の市域範囲は、東西36.5km南北41.7km、面積834.81km^2、最高2,353m、最低327.4mで、市域の約３分の２が山間丘陵地で占められ、地形、地質は複雑である。平坦部を千曲川、犀川が貫流し、市域内の河川は全てこの二大河川に注いでいる。

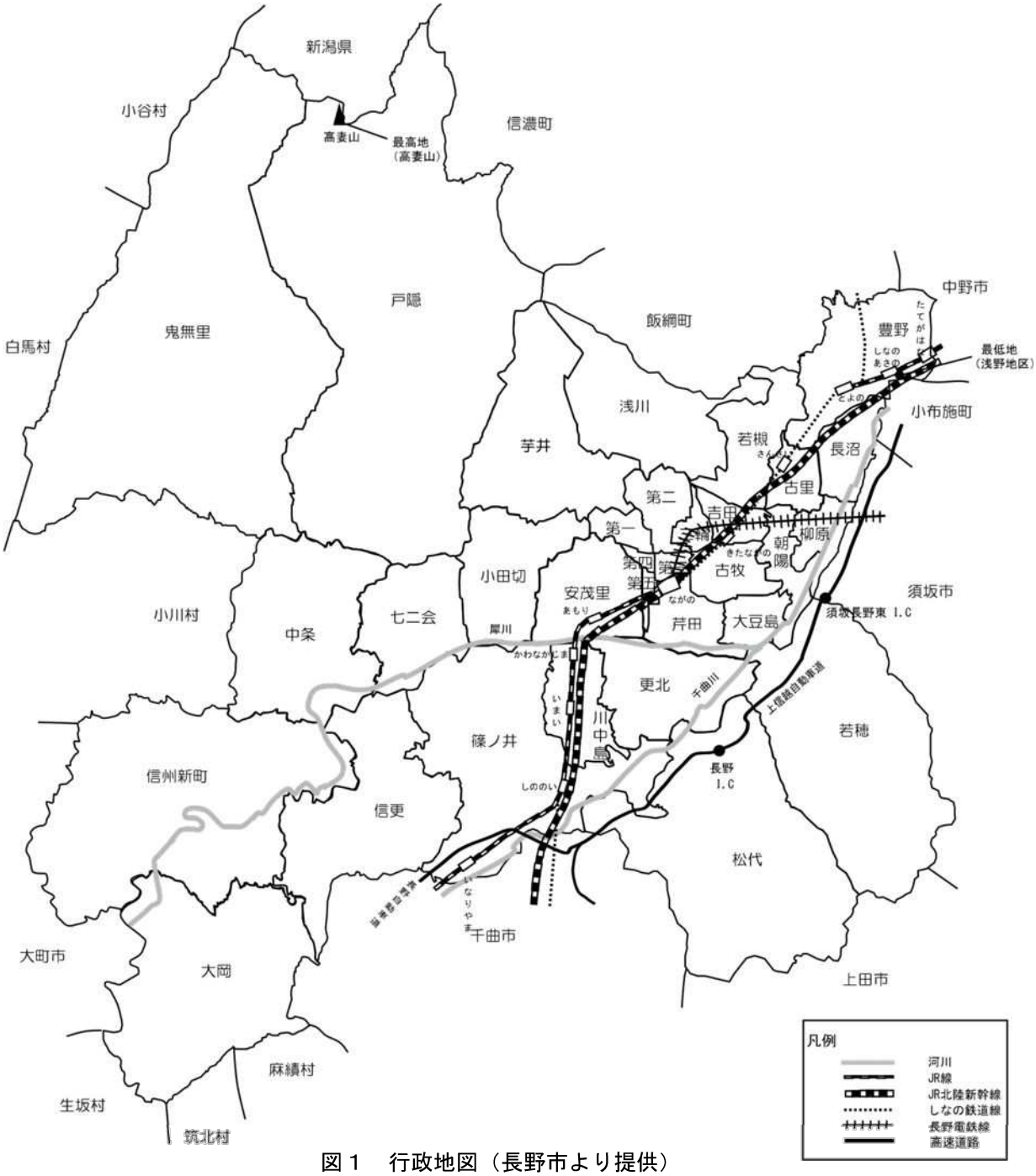


図１　行政地図（長野市より提供）

２　長野市の気象概況

長野市の気候は、犀川を挟んで、北側は日本海側、南側は太平洋側の影響を受けやすく、気候上の地域差がやや大きい。また、四方を山に囲まれているため内陸的な気候特性が顕著で、気温の日較差及び年較差が大きい。さらに、年間降水量は平年で 965.1mmと、北海道および瀬戸内海と並ぶ年間1500mm以下の雨の少ない地域である。しかし、冬季の降雪量は比較的多く、平年値は 163cmで松本市(76cm)の約２倍に達している。

長野の気象図を図２に、主な気象要素の月別平年値を表１に、主な気象要素の極値を表２に示す。

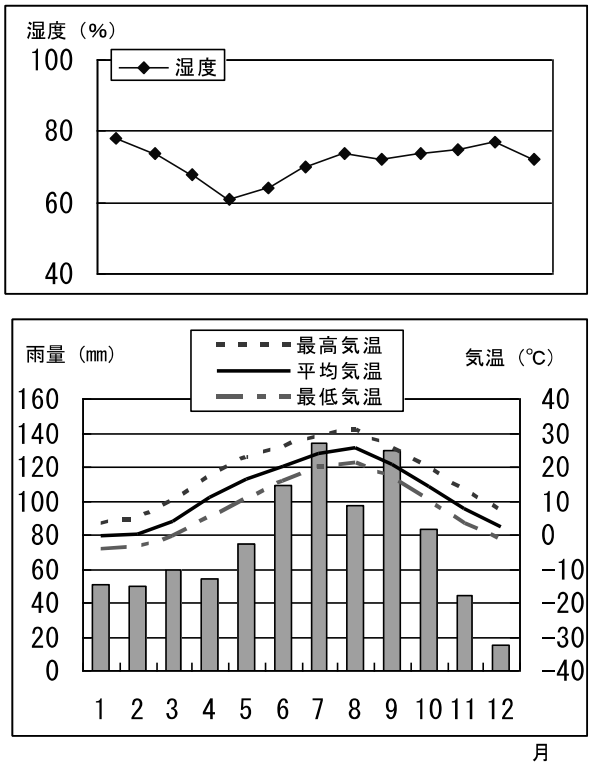


図２　長野の気象図

３　長野における気象要素平年値

表１　長野の主な気象要素の月別平年値（統計期間1991年～2020年）

要素 / 月	気温 ℃ 平均	気温 ℃ 最高	気温 ℃ 最低	湿度 %	降水量 mm	降雪の深さ合計 cm	日照時間 hr	風速 m/s	最多風向
1	-0.4	3.8	-3.9	79	54.6	63	128.4	2.0	E
2	0.4	5.3	-3.7	74	49.1	50	140.2	2.3	E
3	4.3	10.3	-0.5	68	60.1	17	173.3	2.8	ENE
4	10.6	17.4	4.9	61	56.9	2	199.4	3.0	WSW
5	16.4	23.2	10.9	63	69.3		214.8	3.0	WSW
6	20.4	26.1	16.1	71	106.1		167.4	2.7	WSW
7	24.3	29.7	20.5	75	137.7		168.8	2.3	WSW
8	25.4	31.1	21.5	73	111.8		201.1	2.5	WSW
9	21.0	26.2	17.2	74	125.5		151.2	2.6	WSW
10	14.4	19.7	10.3	75	100.3		152.1	2.5	WSW
11	7.9	13.4	3.4	76	44.4	1	142.3	2.2	ENE
12	2.3	6.9	-1.5	79	49.4	30	131.1	2.0	E
合計又は平均	12.3	17.8	7.9	72	965.1	163	1969.9	2.5	WSW

（出典：気象庁HP）

４　長野における気象要素極値

表２　長野の主な気象要素の極値

要　素（　統　計　期　間　）	値	年	月	日
日最低気圧(1889/1～2024/3)	969.8 hPa	1959	9	26
日最高気温(1889/1～2024/3)	38.7 ℃	1994	8	16
日最低気温(1889/1～2024/3)	-17.0 ℃	1934	1	24
日最少湿度（1950/1～2024/3)	6 %	2006	3	25
日最大風速(1889/1～2024/3)	25.8 m/s(NW)	1916	9	26
日最大瞬間風速（1937/1～2024/3)	31.4 m/s(NW)	1948	8	23
日降水量(1889/1～2024/3)	132.0 mm	2019	10	12
日最大10分間降水量（1937/1～2024/3)	26.5 mm	1947	8	17
日最大1時間降水量（1903/4～2024/3)	63.0 mm	1933	8	13
月平均気温の高い値(1889/1～2024/3)	28.2 ℃	2023	8	
月平均気温の低い値(1889/1～2024/3)	-4.9 ℃	1945	1	
月降水量の多い値(1889/1～2024/3)	323.8 mm	1897	7	
月降水量の少ない値(1889/1～2024/3)	1.8 mm	1898	10	
月間日照時間最多(1889/11～2024/3)	294.8 h	1893	7	
月間日照時間最少(1889/11～2024/3)	55.1 h	1891	1	
積雪の深さ日最大値（1892/10～2024/3)	80 cm	1946	12	11
降雪の深さ日最大値（1953/1～2024/3)	52 cm	1973	1	12

（出典：気象庁HP）

５　長野市内及び周辺雨量等観測所一覧

本業務で使用した数値等のデータについては、雨量関係は表３に、降雪・積雪関係は表４に、風向・風速関係は表５に示した観測所のものを使用した。また、雨量関係は図３に配置状況を示した。加工せず用いた図の出典は、都度記載した。

表３　長野市の雨量観測所

観測所名	所在地(住 所)	北　緯	東　経	標高(m)	備　考
(1)　市内雨量観測所所在一覧(市所管)					
長野市役所	長野市大字鶴賀緑町1613	36° 38.9	138° 11.7	361	自記テレメーター
篠ノ井支所	長野市篠ノ井御幣川281-1	36° 34.4	138° 08.3	355	テレメーター
松代支所	長野市松代町松代1360	36° 33.7	138° 12.0	355	テレメーター
若穂支所	長野市若穂綿内7827	36° 36.8	138° 15.1	341	テレメーター
川中島支所	長野市川中島町今井1756-1	36° 35.9	138° 09.4	358	テレメーター
更北支所	長野市青木島町大塚881-1	36° 36.6	138° 11.2	351	テレメーター
七二会支所	長野市七二会丁211-1	36° 37.4	138° 04.4	635	テレメーター
信更支所	長野市信更町高野1589	36° 32.9	138° 02.1	733	テレメーター
柳原支所	長野市大字柳原小島804-5	36° 39.8	138° 15.3	335	テレメーター
若槻支所	長野市大字若槻東条505-1	36° 41.0	138° 13.2	400	テレメーター
安茂里支所	長野市大字安茂里1777-1	36° 38.2	138° 10.3	360	テレメーター
富士ノ塔	長野市大字小鍋字上国見1660	36° 38.9	138° 08.2	963	テレメーター
飯綱浄水場	長野市大字上ケ屋字麓原2471-1	36° 42.2	138° 08.1	1059	テレメーター
菅平県道	長野市若穂保科山6259-1548	36° 32.5	138° 18.1	1270	テレメーター
信更支所	長野市信更町氷ノ田3180-1	36° 34.3	138° 04.4	619	テレメーター
戸隠支所	長野市戸隠豊岡1554	36° 42.1	138° 05.3	905	テレメーター
戸隠公民館	長野市戸隠栃原4789	36° 40.5	138° 04.1	759	テレメーター
中条支所	長野市中条2383-1	36° 36.3	138° 02.2	445	テレメーター
中条倉本	長野市中条御山里2394	36° 38.3	138° 01.3	829	テレメーター
中条念仏寺	長野市中条日下野3198-3	36° 38.5	138° 03.3	778	テレメーター
芋井支所	長野市大字桜824-3	36° 40.6	138° 09.3	599	テレメーター
東部中学校	長野市桐原二丁目8-1	36° 39.9	138° 03.1	369	テレメーター
三陽中学校	長野市大字高田1609	36° 38.7	138° 13.6	343	テレメーター
豊栄小学校	長野市松代町豊栄2787	36° 32.6	138° 13.8	470	テレメーター
大岡笹久	長野市大岡丙3062-2	36° 28.6	137° 59.2	888	テレメーター
信級公民館	長野市信州新町信級1261	36° 33.2	137° 56.5	705	テレメーター

観測所名	所在地(住 所)	北　緯	東　経	標高(m)	備　考
(2)　市内雨量観測所所在一覧(県及び国所管)					
長野(長野建設)	長野市大字南長野南県町686-1	36° 39.1	138° 11.0	370	雨量テレメーター
浅川(県)	長野市浅川清水762	36° 41.6	138° 11.7	705	テレメーター
陣場平(県)	長野市七二会3465	36° 38.6	138° 04.8	1238	テレメーター
信里(県)	長野市篠ノ井有旅3692	36° 35.4	138° 06.1	666	テレメーター
地蔵峠(県)	長野市松代町豊栄1005	36° 30.8	138° 14.5	1025	雨量テレメーター
三才(県)	長野市三才念仏塚2203-8	36° 41.1	138° 14.6	346	雨量テレメーター
松代(県)	長野市松代町東寺尾3323	36° 34.9	138° 12.2	349	雨量テレメーター
若穂保科(県)	長野市若穂保科字白塚3818-35先	36° 35.3	138° 15.1	403	雨量テレメーター
豊野(県)	長野市豊野町豊野荒古4001-26	36° 43.5	138° 16.1	520	雨量テレメーター
裾花ダム(県)	長野市大字小鍋字 (裾花ダム管理事務所)	36° 40.0	138° 07.2	568	雨量テレメーター
戸隠(砂)	長野市戸隠大西	36° 43.4	138° 05.1	1014	雨量テレメーター
戸隠(県)	長野市戸隠中社3115-2先	36° 44.2	138° 05.1	1160	雨量テレメーター
戸隠牧場(県)	長野市戸隠大洞沢3694	36° 46.4	138° 05.2	1200	雨量テレメーター
鬼無里(県)	長野市鬼無里里原8402-ナ	36° 43.4	138° 01.1	778	雨量テレメーター
日影(県)	長野市鬼無里日影4524地先	36° 39.9	137° 59.6	970	雨量テレメーター
日影(砂)	長野市鬼無里日影	36° 44.4	137° 58.5	990	雨量テレメーター
奥裾花ダム(県)	長野市鬼無里16943-4	36° 43.5	137° 58.0	866	雨量テレメーター
大岡(県)	長野市大岡乙298-1	36° 30.3	137° 58.7	698	雨量テレメーター
信州新町(砂)	長野市信州新町下市場	36° 33.8	137° 59.6	450	雨量テレメーター
信州新町(県)	長野市信州新町山穂刈6069-1	36° 34.6	137° 58.9	714	雨量テレメーター
長野	長野市箱清水 (長野地方気象台)	36° 39.7	138° 11.5	418	有線ロボット気象計
鬼無里(気)	長野市鬼無里	36° 41.3	137° 57.9	778	有線ロボット気象計
信州新町(気)	長野市信州新町牧田中	36° 32.9	137° 59.8	509	有線ロボット気象計
(3)　長野市周辺雨量観測所所在一覧(県及び国所管)					
三水(県)	上水内郡飯綱町大字古町大字芋川4032-1	36° 46.3	138° 16.0	570	雨量テレメーター
牟礼(県)	上水内郡飯綱町大字古町2415	36° 44.9	138° 13.1	537	雨量テレメーター
信濃町(気)	上水内郡信濃町柏原字小丸山	36° 48.5	138° 11.8	685	有線ロボット気象計
菅平(気)	上田市菅平高原	36° 31.9	138° 19.5	1253	有線ロボット気象計
聖高原(気)	東筑摩郡麻績村猿ヶ馬場峰山	36° 29.2	138° 04.1	985	有線ロボット気象計

表４　降雪・積雪観測所

観測所名	施設名	設置場所	標高（m）	所管
長野	長野地方気象台	長野市箱清水1－8－18	420	気象庁
飯綱	飯綱浄水場北部出張所	長野市大字上ケ屋2471-1	1050	長野市
戸隠	戸隠支所	長野市戸隠豊岡1554	910	長野市
鬼無里	鬼無里支所	長野市鬼無里日影2750-1	680	長野市
大岡	大岡支所	長野市大岡乙287	850	長野市
信州新町	信州新町支所	長野市信州新町新町1000番地１	430	長野市
中条		長野市中条2549-2	800	長野市
豊野	豊野支所	長野市豊野町豊野631	330	長野市
松本		松本市沢村1-7-13	610	気象庁
飯田		飯田市馬場町3-411	483	気象庁
軽井沢		北佐久郡軽井沢町追分1151-2	1005	気象庁
諏訪		諏訪市湖岸通り5-2-11	760	気象庁

表５　長野市内の風向風速観測局

観測局名	設置場所	所管
鍋屋田局	長野市大字鶴賀上千歳町1365-2	長野市
小島田局	長野市小島田町805-11	長野市
吉田局	長野市吉田１丁目2-40	長野市
篠ノ井局	長野市篠ノ井布施高田下居坂701-1	長野市
真島局	長野市真島町真島2268-1	長野市
豊野局	長野市豊野町豊野631	長野市
環境保全研究所	長野市安茂里米村1978	長野県
長野地方気象台	長野市箱清水1－8－18	気象庁

６　長野市内及び周辺雨量観測所配置図

※長野市中心部観測所配置図

図３　長野市内及び周辺雨量観測所配置図

（長野市行政地図から作成）

７　用語解説

本書に使用した気象用語は、気象庁が定める基準に従った。

項目	用　　語	解　　説
気圧配置	高気圧	高さの同じ面で、周囲より気圧が高く、閉じた等圧線に囲まれた所。高気圧の中心付近では上空から空気が下降気流となって降りてくるため一般に雲が少ない。
	移動性高気圧	温帯低気圧や気圧の谷と交互に東に移動していく高気圧。春、秋に多く現れる。
	大陸の高気圧	主として冬期に大陸に存在する高気圧。シベリア高気圧もこれに含まれる。
	太平洋高気圧	夏期を中心に強まる高気圧で、その中心はハワイ諸島の北の東太平洋にある。
	低気圧	高さの同じ面で、周囲より気圧が低く、閉じた等圧線に囲まれた所。低気圧は温帯低気圧と熱帯低気圧に分けられるが、単に「低気圧」という場合は温帯低気圧のことをいう。
	気圧の谷	高圧部と高圧部の間の気圧の低い所
	温帯低気圧	中緯度や高緯度に発生する低気圧で、前線を伴うことが多い。通常は単に「低気圧」という。
	熱帯低気圧	熱帯又は亜熱帯地方に発生する低気圧の総称
	台風	北太平洋に存在する熱帯低気圧のうち、中心付近の風力の最大が８（風速17.2m/s以上）のもの。
	冬型の気圧配置	日本の西側の大陸側が気圧が高く、東側で気圧が低い、「西高東低」の気圧配置。主に冬期に現れる。
天気	天気	気温、湿度、風、雲量、視程、雨、雪、雷などの気象に関係する要素を総合した大気の状態
	快晴	雲量が全天を10とした時、１以下の状態
	晴れ	雲量が２以上８以下の状態
	曇り	雲量が９以上で、中・下層の雲が上層の雲より多く、降水がない状態
	薄曇り	雲量が９以上で、上層の雲が中・下層の雲より多く、降水がない状態
雨	雷雨	雷を伴う雨
	ひょう	積乱雲から降る直径５mm以上の氷塊
	豪雨	著しい災害が発生した顕著な大雨現象
	集中豪雨	狭い範囲に数時間にわたり、 100mmから数百mmの雨量をもたらす雨
	局地的な大雨	急に強く降り、数十分の短時間に狭い範囲に数十ミリ程度の雨量をもたらす雨
	大雨	大雨注意報基準以上の雨
	やや強い雨	雨量強度が、１時間におよそ10mm以上20mm未満の雨
	強い雨	雨量強度が、１時間におよそ20mm以上30mm未満の雨
	激しい雨	雨量強度が、１時間におよそ30mm以上50mm未満の雨
	降水量	降水量は、降った雨がどこにも流れ去らずにそのまま溜まった場合の水の深さで、mm（ミリメートル）で表す。雪が降った場合は、雪を雨量計で溶かして降水量として観測する。
	解析雨量	降水量分布を１km四方（メッシュ）の細かさで解析した値

項目	用　　語	解　　説
雪	あられ	積乱雲から降る直径５mm未満の氷の粒
	みぞれ	雨まじりに降る雪。又は、解けかかって降る雪
	大雪	大雪注意報基準以上の雪
	強い雪	降雪量が１時間に３cm以上の雪
	弱い雪	降雪量が１時間に１cmに達しない雪
	小雪	数時間降り続いても、降水量として１mmに達しない雪
	降雪量	降雪の深さ（cm単位）。本書では、毎正時積雪の差がプラスだった場合にその値を降雪量とし、その日合計値を日降雪量とした。
	積雪（の深さ）	積もった雪の深さ（cm単位）
	最深積雪	１日に複数回観測したうちの最も深い積雪値
気温・湿度	気温	通常は地上1.25～ 2.0mの大気の温度を℃単位で表す。
	日平均気温	日平均気温は１時から24時までの毎正時24回の観測値の平均
	最低（最高）気温	通常は日最低（最高）気温のこと（日界は午前０時）
	寒波	主として冬期に、広い地域に２～３日、又はそれ以上にわたって顕著な気温の低下をもたらす寒気が到来すること。
	寒気	周りの空気に比べて低温な空気
	暖気	周りの空気に比べて高温な空気
	放射冷却	地表面の熱が放射によって奪われ、気温が下がること。
	大気の状態が不安定	局地的な対流活動が起こりやすいこと。上空に寒気が流れ込んだり、下層に暖かく湿った空気が入った場合に生じることが多い。
	暖湿気流	周りの空気に比べて高温で、かつ湿った空気
	湿潤（湿った）空気	湿度が高い空気。目安として湿度がおよそ80%以上の状態をいう。
	湿度	普通は相対湿度のこと。相対湿度は水蒸気量と、その時の気温における飽和水蒸気量との比を百分率で表したもの。
	夏日	日最高気温が25度以上の日
	猛暑日	日最高気温が35度以上の日
風	風向	風の吹いてくる方向。観測では16又は36方位を用いる。
	（南）よりの風	風向が（南）を中心に（南東）から（南西）の範囲でばらついている風
	風速	10分間平均風速を指し、毎秒○．○m、又は○．○m/sと表す。
	最大風速	10分間平均風速の最大値
	最大瞬間風速	瞬間風速の最大値
	やや強い風	風速がおよそ10m/s以上15m/s未満の風
	強い風	風速がおよそ15m/s以上20m/s未満の風
	非常に強い風	風速がおよそ20m/s以上30m/s未満の風
	暴風	暴風警報基準以上の風
	猛烈な風	風速がおよそ30m/s以上、又は最大瞬間風速がおよそ50m/s以上の風
	強風	風の強い状態の総称
	卓越風向	ある地点で月ごと、又は年間を通して一番吹きやすい風向

令和６年　長野市の災害と気象
令和８年３月　発行
発行　長野市総務部危機管理防災課
編集　一般財団法人日本気象協会長野支店